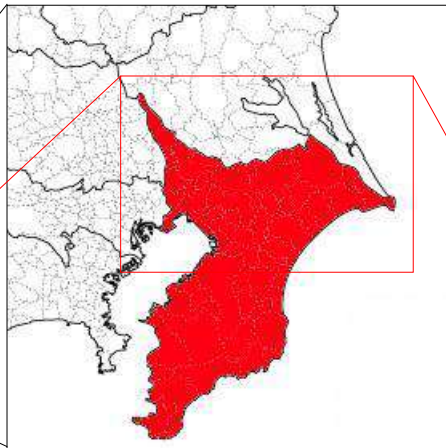


① 申請者	◎千葉県 (佐倉市、成田市、香取市、銚子市)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル	「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」 －佐倉・成田・佐原・銚子： 百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群－		
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>北総地域は、百万都市江戸に隣接し、関東平野と豊かな漁場の太平洋を背景に、利根川東遷により発達した水運と江戸に続く街道を利用して江戸に東国の物産を供給し、江戸のくらしや経済を支えた。こうした中、江戸文化を取り入れることにより、城下町の佐倉、成田山の門前町成田、利根水運の河岸、香取神宮の参道の起点の佐原、漁港・港町、そして磯巡りの観光客で賑わった銚子という4つの特色ある都市が発展した。</p> <p>これら四都市では、江戸庶民も訪れた4種の町並みや風景が残り、今も東京近郊にありながら江戸情緒を体感することができる。</p> <p>成田空港からも近いこれらの都市は、世界から一番近い「江戸」といえる。</p>  <p style="text-align: center;">成田 香取 鹿島 息栖 細見絵図 (千葉県立中央博物館蔵)</p>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名			
電話		F A X	
E-mail			
住所			

(様式 1 - 2)

市町村の位置図 (地図等)



千葉県

チーパくん
(千葉県マスコットキャラクター)



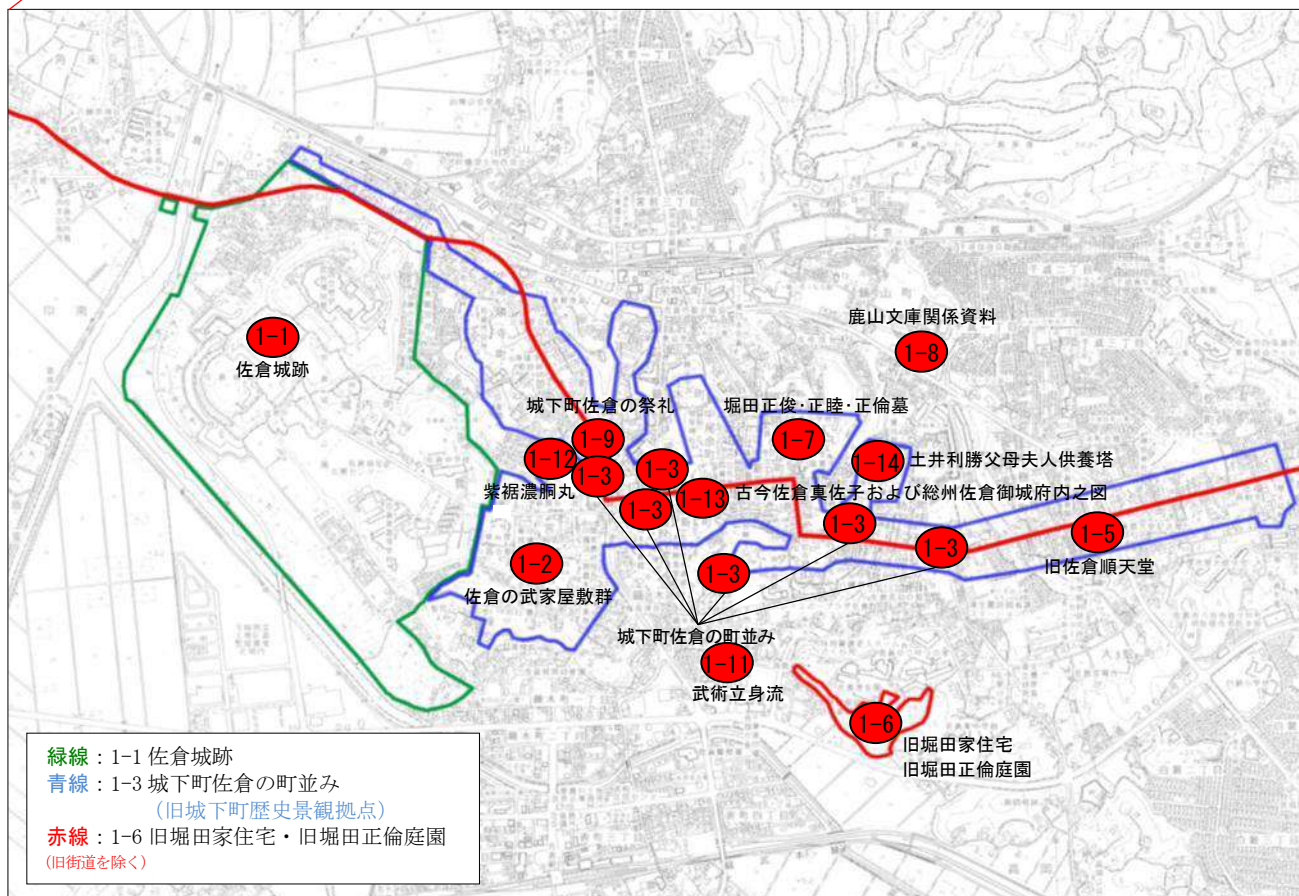
※ 地図中の赤(太)線は、旧街道を示した。
香取神宮については、旧参道も赤(太)線で示した。

構成文化財の位置図(地図等)

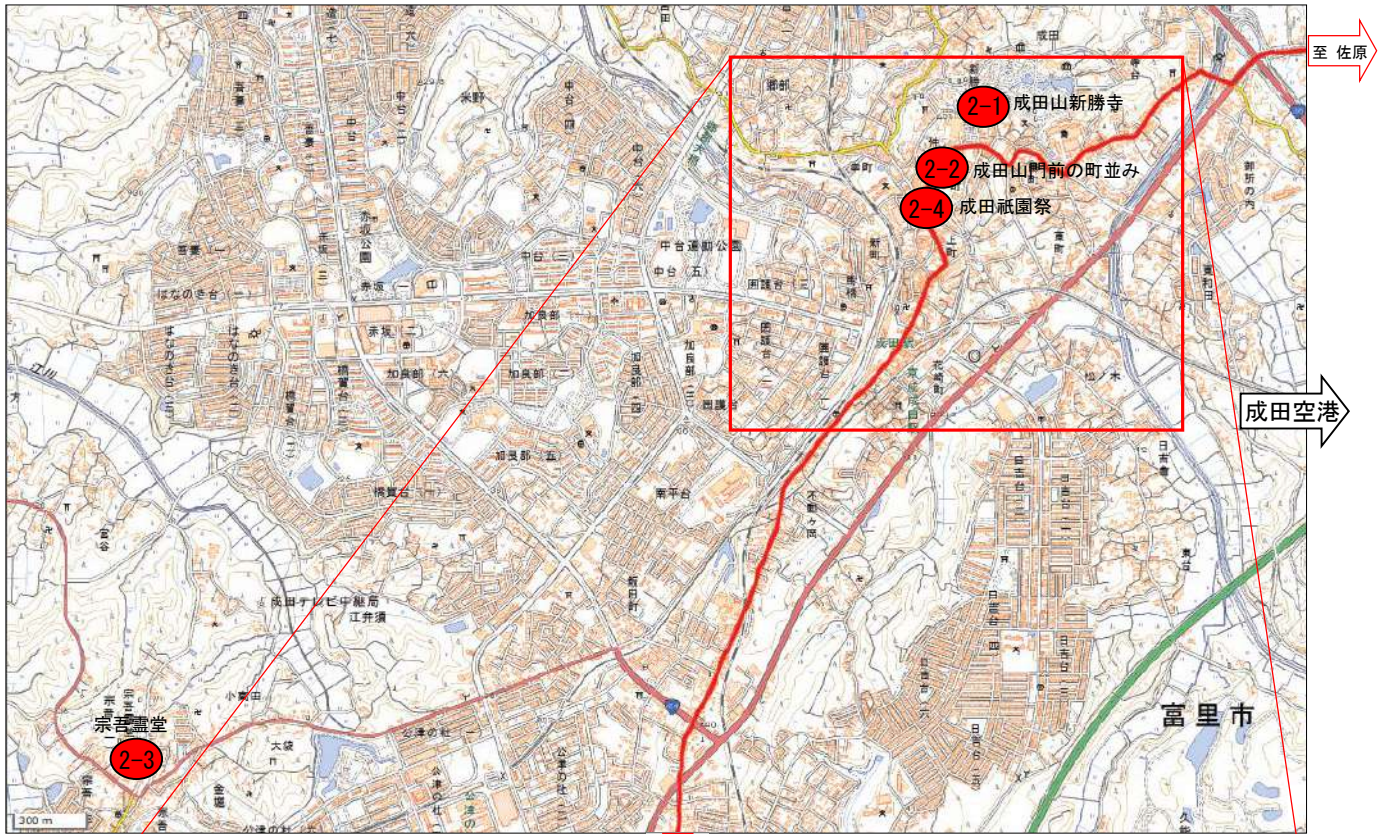
1 佐倉市



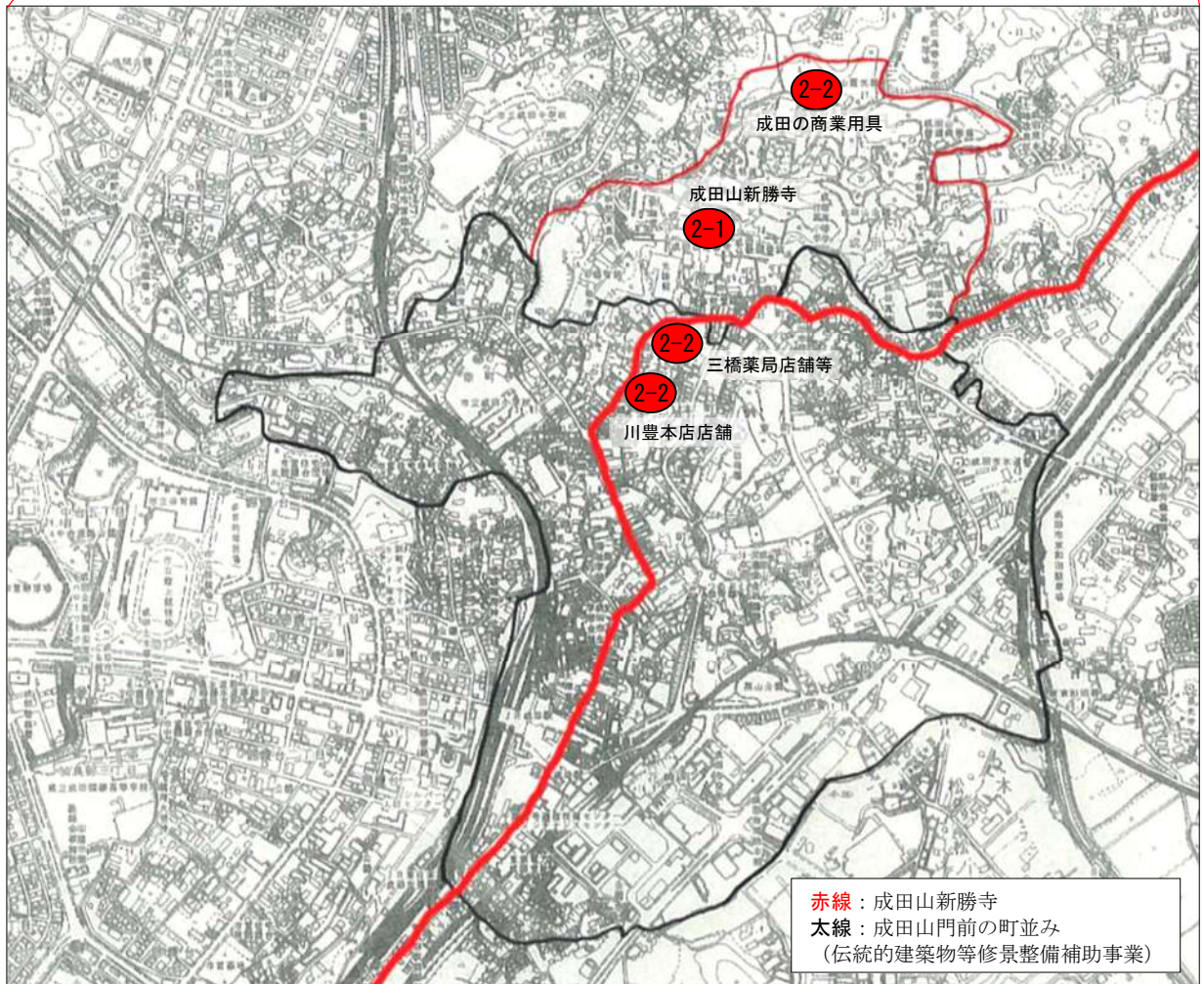
1-3 城下町佐倉の町並み



2 成田市



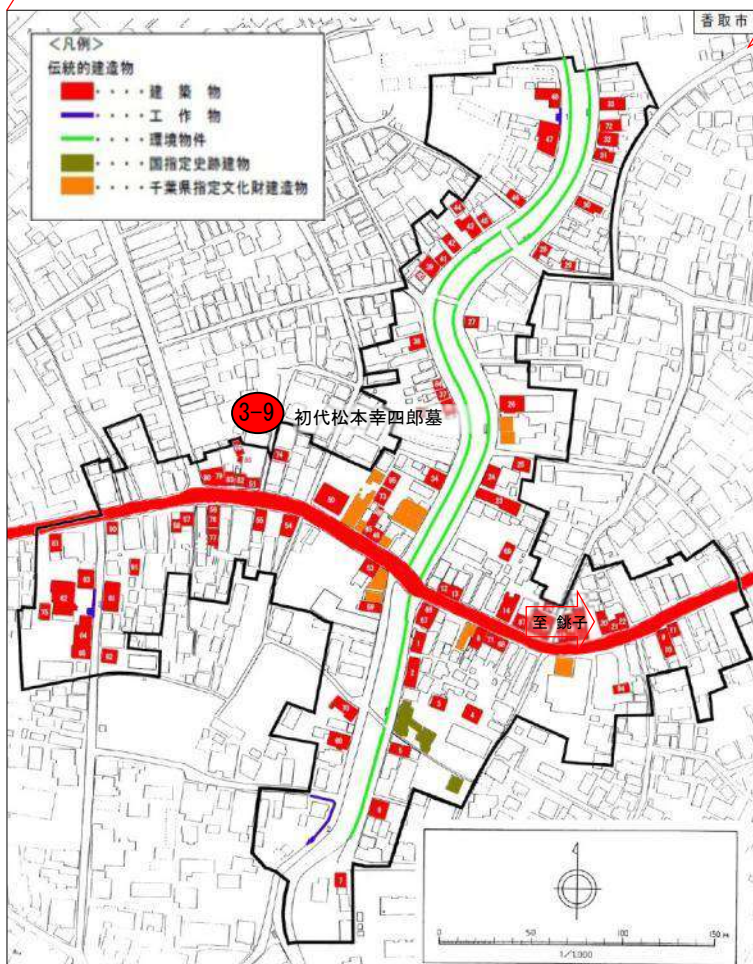
2-2 成田山門前の町並み



3 香取市



3-1 香取市佐原重要伝統的建造物群保存地区



1-5 佐藤尚中誕生地 (香取市小見川)

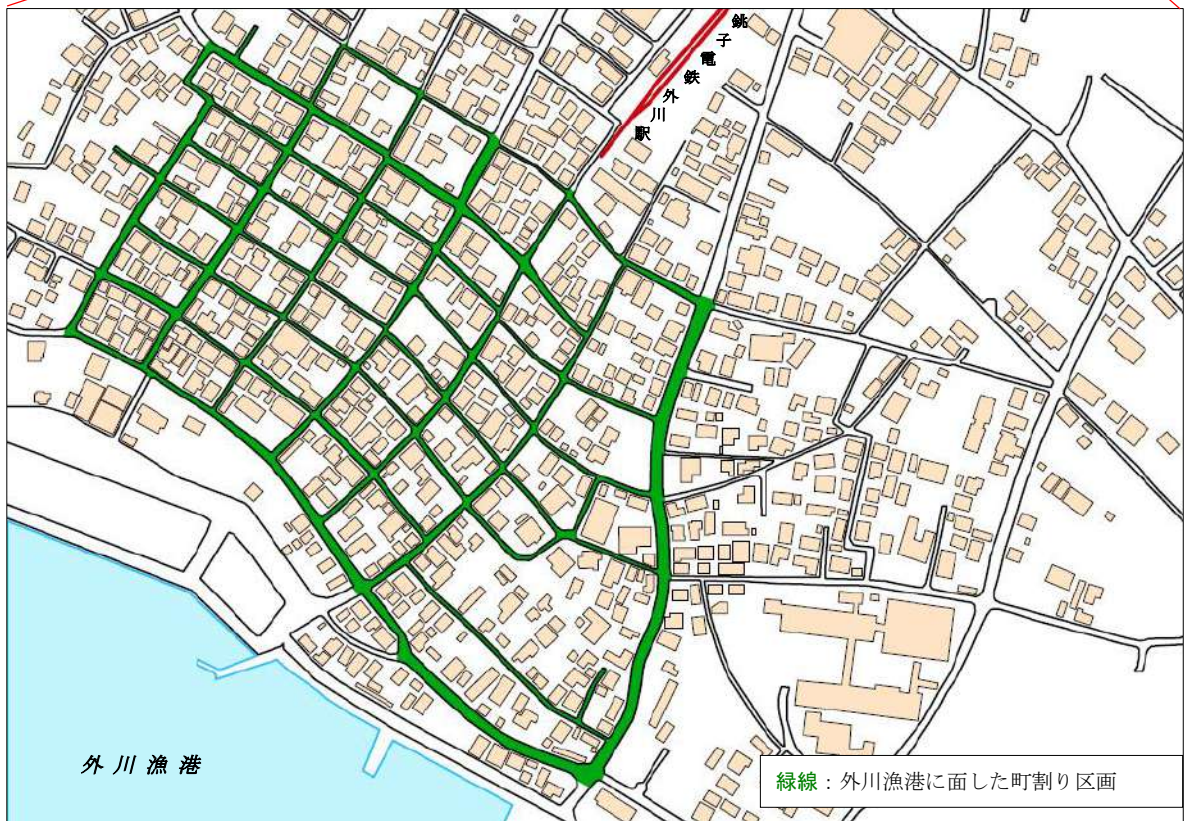


4 銚子市

3



4-1 外川漁港に面した町割り区画



ストーリー

「お江戸見たけりゃ佐原へござれ、佐原本町江戸優り」。江戸時代の戯れ歌に唄われた当時の佐原の繁栄ぶりである。江戸に近接する北総地域は、江戸に続く街道と利根川水運を活かし、江戸を様々な形で支えながら発展した。そして、江戸との盛んな人と物の交流は、江戸の文化をこの地域に豊かにもたらしその繁栄を支え、特色ある都市群が形成された。

1 江戸に続く街道と利根川水運の発達をもたらした繁栄

千葉県北部に位置する北総地域は、古代から河川・湖を越えて奥州に臨む要所として位置づけられ、中世には様々な勢力が抗争する地でもあった。江戸幕府もその地勢的な重要性から、佐倉に有力譜代大名を配し、江戸と佐倉間の佐倉街道も整備した。その後、この街道を経て成田山新勝寺へと向かう「成田参詣」の隆盛に伴い、成田街道とも呼ばれるようになった。さらに街道は東に延び、佐原・香取・鹿島といった利根川水郷地帯に集中する観光・信仰の一大センターへと続く。また、利根川に沿って銚子に向かう銚子街道は、佐原で成田街道と交差し、同所から銚子まではおよそ40kmの道程である。北総の都市の発展は、街道により支えられた。



七代目市川團十郎が寄進した道標

北総の発展を支えたもう一つの要素が利根川である。家康の江戸入府後に、江戸の町を利根川の水害から守るため行われた利根川の東遷事業は、北総地域を利根川の下流とし大きな水害をもたらしたが、一方で、利根川東遷・江戸川の開削事業は、利根川の舟運を発達させ、流域には佐原に代表される多くの河岸も発達した。さらに、海難事故の多い房総沖を避け、銚子を起点として利根川を遡って江戸に向かう水運ルートは、東国各地の物資を江戸に運ぶ大動脈となった。佐倉藩も治水に取り組み、印旛沼に河岸を設け水運を活用して藩の特産品などを江戸に運んだ。

利根川水運は、商業的な往来はもちろんのこと、人の往来も活性化し、成田参詣も陸行ばかりでなく途中まで舟を利用した者も多く、また、香取神宮などの「三社詣で」や「銚子の磯巡り」など舟旅を楽しむ江戸庶民の小旅行の流行をももたらした。

このように、江戸へと続く街道と利根川の大動脈は、北総地域の発展を支える大きな柱となった。

2 百万都市江戸を支え、江戸との関わりで発展した都市群

当時、百万人の人口を有した世界有数の大都市江戸は、周辺都市・地域の支えにより成り立っていた。特に、北総地域は、利根水運の発達と整備された街道を通じ、様々な面から江戸の生活・幕藩経済を支えた。

要衝である佐倉は、江戸に家康が入ると有力親藩・譜代大名が配置(老中8名/藩主23名)されるなど、政治的・軍事的に江戸を支える重要な拠点都市であり続けた。加えて、幕末に開国へと導いた開明老中堀田正睦が藩校「成徳書院」を拠点に洋学の振興に努め、江戸に人材を輩出する学都としても発展した。特に、1843年に「佐倉順天堂」が設立され、医学分野においては「西の長崎、東の佐倉」として、長崎と並び称され、ここで学んだ多くの若者が明治の医学界で活躍した。

成田山新勝寺は、歌舞伎役者市川團十郎(屋号:成田屋)の深い帰依と、江戸深川での秘仏公開のキャンペーンの成果もあり、江戸庶民の間で「成田参詣」がブームとなり、成田山とその門前町(成田)は大いに発展した。また、成田に向かう人々は、その途上、帰途に佐倉城下や宗吾霊堂など名所旧跡にも立ち寄った。

佐原は、江戸時代初めから酒造もはじまり、利根川水運と結びついた廻米・酒造・商業活動により、下利根随一の河港商業都市に発展した。また、香取神宮の参道の起点として参詣客を迎える町としても賑わった。なお、

今も賑わう成田山新勝寺



町は、旦那衆と呼ばれた商人（名主）たちにより自治的な運営が行われ、「大日本沿海輿地全図」を作った伊能忠敬もその1人で、経済的発展は地域の文化・学問にも影響を及ぼした。

利根川東遷によりその河口となった銚子は、天然の漁場を臨む好地にあり、江戸の人々に魚を供給する漁港として発展した。魚の江戸への運搬は、利根川と「鮮魚（なま）街道」と呼ばれる街道により鮮度を失わないように迅速に行われた。銚子は、今なお我が国随一の漁港として、魚好き国民の食を支え続けている。また、銚子独特の地質景観の奇岩の「磯巡り」は、文人墨客も好んで題材とし、銚子は観光でも賑わった。利根川水運の発達は、銚子を漁港に留まらず、東国の米などの物資を江戸に送る流通や、江戸前料理を支えた濃口醤油の醸造でも繁盛させ、当時の人口は関東地方では江戸を除き水戸に次いで多かった。



このように、北総の四都市は、水運と街道を通して、政治・学問(佐倉)、信仰・観光(成田)、商業・水運(佐原)、漁業・港湾(銚子)により、江戸を支える大きな役割を果たした。

3 世界から最も近い「江戸」：江戸情緒の残る代表的町並み群

江戸との密接な繋がりの中でそれぞれ繁栄した四都市は、今の暮らしの中でも江戸の往時を物語るように町並みが残されている。また、城下町、門前町、商家の町、港町という江戸の代表的な町並みとして揃っているのも北総地域の大きな特色である。

佐倉では、佐倉城跡に本丸を中心に堀・土塁が残り、町中の道は狭く直角に折れ曲がる城下町の名残を留め、武家屋敷群が良好に保存されるとともに、旧佐倉順天堂の建物や藩校「成徳書院」や堀田家の資料（鹿山文庫）などにより武家の生活や洋学を学んだ者の足跡も偲ぶことができる。

成田山新勝寺には初詣や節分などで東京から多くの参拝客が訪れ、往時から続く成田参詣は今なお隆盛が続いている。伽藍には多くの歴史的な建物が残されており、門前町も昔からの町並みや雰囲気の中で賑わい、利根川・印旛沼の幸を生かした鰻料理は、門前町の名物となっている。

利根川に続く小野川の両岸に繁栄した佐原の町並みは、地域の人々の努力により保全・修復され、川沿いには川面に下りる荷揚げ用の石段「だし」なども残り、江戸情緒の残る往時の商人の暮らしを体感することができる。

銚子の漁港は、江戸時代初期に紀州から移住した崎山治郎衛門が築港した外川港から始まるが、漁港に面した斜面には碁盤の目のような当時の区画が今も残されている。また、利根川河口付近には、江戸時代から銚子の観音様として参拝者が多かった円福寺や漁師の守り神とされる川口神社、廻船問屋の建物など、港町の隆盛を物語る資産が残っている。

さらに、四都市には、その町並みの中で息づく伝統的な祭りが継承され、多くの観光客で賑わっている。中でも、夏と秋の「佐原の大祭」に、彫刻 伝統的建造物群保存地区の町並みで「佐原の山車行事」に飾られた総樺作(そうげやきづく)りの絢爛豪華な山車が「佐原囃子」の調べにのって、小野川両岸の伝統的な建造物の町並みの中を曳きまわされる「佐原の山車行事」には、今でも全国から大勢の人が訪れる。

伝統的建造物群保存地区の町並みで「佐原の山車行事」



これら北総の四都市は、日本の空の玄関成田空港からごく近く場所にあり、例えば、成田の門前町へは車・電車ではおよそ15分～20分の距離である。

江戸及びその近郊の都市の多くが、開発により昔ながらの風景・街道が破壊されて行く中で、北総地域に今も良好に残される佐倉の城下町、成田の門前町、佐原の商家の町並み、銚子の港町は、世界から一番近い場所に江戸情緒が残り、しかも同一地域にありながらタイプの違う4種の町並みで、江戸を感じることができる稀有な例となっている。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状 況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所 在地(※ 4)
1-1	佐倉城跡 まくらじょうあと	市史跡	江戸の東を守る要として、1611年より約7年をかけて徳川家康の従兄弟にあたる土井利勝(老中、後に大老)が築城。土塁、空堀、水堀、馬出しを巡らした城構えは、「日本三城の内と言伝る」と当時の記録にも評される堅牢さであった。堀田正亮(老中首座)が1746年に入封以降は、堀田氏の居城として幕府を支えた。 本ストーリーのガイダンス施設としての国立歴史民俗博物館も城跡内に位置している。	佐倉市
1-2	佐倉の武家屋敷群 ①旧河原家住宅 ②旧但馬家住宅 ③旧武居家住宅	県有形1件 市有形1件 国登録1件	佐倉城築城にあわせて、城の東に連なる台地上に武家屋敷と町屋を配置し、城下町が整備された。現在も昔ながらの区割りや家屋が多く残され、宮小路町字鍋木小路の通りには三棟の武家屋敷が公開されている。これらの屋敷は、天保年間に制定された佐倉藩の「居住の制」(武家屋敷の規模や様式は、居住する藩士の身分の象徴であり、藩が住宅の基準を定めた)に合致しており、当時の藩士の職階に沿った住環境を具体的に知ることができるよう整備・公開されている。	佐倉市
1-3	城下町佐倉の町並み ①旧平井家住宅 ②佐藤家住宅 ③山口家住宅 ④石渡家住宅 ⑤三谷家住宅 ⑥旧今井家住宅	県有形1件 国登録2件 市登録3件	江戸へ向かう佐倉道(成田街道)は、城下町をほぼ東西にはしり、防衛上の工夫からクランク状に屈曲しており、その他の道路・地割もほぼ当時の形状を保っている。街道及びその周辺には、「旧佐倉順天堂」のほか、近世から近代の歴史的建造物(武家・商家)が現在も遺されており、城下町の風情を感じることができる。	佐倉市
1-4	佐倉道(成田街道)道標 まくらみち なりた かいどう どうひょう	無指定	土井利勝が佐倉藩主になると江戸～佐倉間の街道は整備され、佐倉藩主だけではなく、近隣の大名も参勤交代に使うほど重要な街道となった。また、この街道は、江戸中期以降江戸庶民の「成田詣で」で賑わうようになり、成田街道と呼ばれるようになる。 街道沿いには現在も多く道標が	佐倉市

			残るが、中でも井野にある道標「成田山道」は、七代目市川團十郎が寄進したもので、江戸庶民の成田山信仰の象徴的なものである。	
1-5	<p>きゅうさくらじゆんてんどう 旧佐倉順天堂 きくらじゆんてんどういしがく 佐倉順天堂医史学 しりょう 資料</p> <p>きとうたかなかたんじょうち 佐藤尚中誕生地</p>	<p>県史跡 市有形</p> <p>県史跡</p>	<p>天保14年（1843）、蘭医学者として名を馳せていた佐藤泰然は、当時の佐倉藩主で蘭癖とまで呼ばれた老中堀田正睦の招きで江戸から佐倉に移住し、医学所「順天堂」を開設した。以後この地は、多くの優れた人材を輩出し、日本の近代医学発祥の地となった。佐倉が蘭学（洋学）の先進地たる象徴の一つである。また、幕末から近代の日本医学史を知ることができる、「佐倉順天堂医史学資料」も残されている。</p> <p>下総国小見川出身の佐藤尚中は、泰然の養子・後継者となり、東京に順天堂医院を設立するなど、日本近代医学の中心人物となった。</p>	<p>佐倉市</p> <p>香取市</p>
1-6	<p>きゅうほつたけじゆうたく 旧堀田家住宅 きゅうほつたまさとていえん 旧堀田正倫庭園</p>	<p>重文 国名勝</p>	<p>最後の佐倉藩主である堀田正倫の邸宅・庭園。正倫はここを本邸とし、旧領佐倉のために尽力した。特に藩校「成徳書院」をもととする佐倉中学校（現在の県立佐倉高校）に多くの支援を行い、父正睦と同じく佐倉の教育の発展に貢献した。旧堀田邸は、旧大家の気風を今に残し、正倫の業績を偲ぶことができる場所である。</p>	<p>佐倉市</p>
1-7	<p>ほつたまさとし まさよし 堀田正俊・正睦・ まさともほか 正倫墓</p>	<p>県史跡</p>	<p>佐倉藩主を長く務めた堀田家の菩提寺である甚大寺にある墓所。墓所内には、正倫、旧藩士によって建てられた正睦の追遠碑もあり、昭和11年には浅草から大老堀田正俊の墓も移されており、大老と老中の墓が並んでいる。堀田家が佐倉において地域結合のシンボルであったことを示している。</p>	<p>佐倉市</p>
1-8	<p>ろくざんぶんこかんけいしりょう 鹿山文庫関係資料</p>	<p>県有形</p>	<p>藩校「成徳書院」に所蔵されていたわが国最初の蘭和辞典「ハルマ和解」をはじめとする貴重な古典籍群。特に蘭書（洋書）は、質・量ともに他藩を凌ぐもので、佐倉が蘭学（洋学）の先進地であったことを如実に伝えている。</p> <p>成徳書院は、現在も途絶えることなく、県立佐倉高等学校としてその歴史を刻んでおり、古典籍群は「鹿山文庫」として管理されている。</p>	<p>佐倉市</p>

1-9	じょうかまち さくら さいれい 城下町佐倉の祭礼 ① 麻賀多神社神輿 ② 麻賀多神社神輿 渡御 ③ 旧佐倉町の祭礼 用具 ④ 佐倉囃子	市無民2件 市有民2件	江戸の祭礼文化を脈々と受け継ぐ城下町の祭礼。佐倉藩総鎮守麻賀多神社の大神輿の渡御、各町の山車・御神酒所の引き廻し、江戸囃子の流れをくむ佐倉囃子の演奏など、様々な要素に江戸の祭礼の息づかいが今に残っている。祭礼に登場する山車は、佐原・成田などとともに、利根川流域に分布する江戸型山車の一つでもある。	佐倉市
1-10	か がし みず 加賀清水	無指定	佐倉藩が江戸への参勤交代のために整備した佐倉街道。その途中にあったこの清水は、延宝6年(1678)から貞享3年(1686)まで佐倉藩主であった大久保加賀守忠朝が、江戸参府の際に、いつもこの清水を賞味していたことに由来するといわれる。天保年間には、近くの休み茶屋がこの清水を使用した湯茶を飲ませ、7代目市川團十郎も立ち寄ったといわれる。	佐倉市
1-11	ぶじゆつたつみりゆう 武術立身流	県無形	学問とともに武芸にも力を入れた佐倉藩。佐倉五流といわれた古武術の中で、唯一、現在まで継承されるのが立身流であり、佐倉藩の「武」の粋を現代に伝える総合古武術といえる。 藩外不出の武術と言われ、多くの佐倉藩士たちがこれを学んだが、明治に入り警視庁での剣術の形の一つにも採用された。現在も宗家は多くの門弟とともに技の体得・伝承のため、精力的な活動を続けている。	佐倉市
1-12	むらさきすそごどうまる 紫裾濃胴丸	県有形	政治的・軍事的に江戸を支える重要な拠点都市であった佐倉において、藩主堀田正愛の着具として文化14年(1817)に仕立てられ、以後藩主の鎧として受け継がれた。中世以来の大鎧を模した意匠が見られ、当時の工芸技術の高さが集約されている。佐倉藩・堀田家が、蘭学(洋学)を取り入れる先進性を持っていただけでなく、武家の伝統を踏まえた甲冑・武具制作を行っていたことがわかる好資料である。	佐倉市
1-13	ここんさくらまきご 古今佐倉真佐子および総州佐倉御城府内之図	市有形	佐倉城と城下町、武家屋敷だけでなく、成田山や宗吾霊堂などを含む周辺の地理、風俗、風習、動植物などが記され、江戸中期の城下町佐倉の生活文化を紡ぎ出す好資料である。	佐倉市

			る。佐倉城主稲葉正知の家臣、渡辺善右衛門によって記された。	
1-14	土井利勝父母夫人 供養塔	市史跡	佐倉城を築城した土井利勝によって創建された松林寺（本堂千葉県指定）。その境内に利勝の父母、夫人が葬られ、3基の宝篋印塔として残る。土井利勝の孝徳が偲ばれる供養塔として、松林寺は利勝が築城にあたり陣屋を築いた場所ともいわれ、城下町整備の拠点となった地でもある。利勝は、後に古河へ転封したため、佐倉市内に彼に関する文化財は多く残っていない。その中で、彼の足跡を偲ぶことができる貴重な文化財の一つである。	佐倉市
2-1	成田山新勝寺 (光明堂) (釈迦堂) (三重塔) (仁王門) (額堂) (木造不動明王及び二童子像) (薬師堂(鐘楼)) (一切経堂) (清滝権現堂) (輪転経蔵)	重文6件 市有形5件	寺格の格上げと、江戸での出開帳による熱心な布教活動、初代市川團十郎の深い帰依（父の生まれが成田近郊で、跡継ぎに恵まれず成田山に祈願し、後の二代目團十郎を授かった）、團十郎が演じる歌舞伎「成田山分身不動」の大ヒットなどにより、江戸庶民から不動明王に対する篤い信仰を受けた成田山新勝寺。寛政3年(1791)からの100年間で、1,300以上の講社が結成され、江戸での旅行ブームも相まって、多くの参詣客を集めた。現在では、正月三が日の参詣客が300万人に達するまでになっている。	成田市
2-2	成田山門前の町並み ①三橋薬局店舗等 ②成田の商業用具 ③川豊本店店舗	県有民1件 国登録2件	成田山新勝寺への参詣客を迎える表参道に展開した門前町。参詣客の増加とともに商売を行う家も増え、天保14年(1843)には、旅館32軒、菓子屋22軒、居酒屋20軒をはじめ、158軒の店が確認できる。 創業が元禄時代の三橋薬局では、「はらのくすり 成田山一粒丸」が売られている。その昔は、道中薬と言われ、成田山新勝寺に訪れる旅人が、この薬ひとつを持参していれば何病にも良いとされていた。 参詣客の疲れを癒すために、利根川・印旛沼の川魚料理でもてなしたが、銚子の醤油の味付けで、江戸で広まったうなぎ料理が、この地でのうなぎ料理を一層活発にさせた。	成田市
2-3	宗吾霊堂	無指定	成田山新勝寺への信仰が広まる中、江戸からの参詣道の途中にある宗吾霊堂も、市川團十郎家門下であ	成田市

			る四代目市川小団次が、佐倉惣五郎 <small>さくらそうごろう</small> （木内惣五郎）の生涯を描いた歌舞伎「東山桜莊子」 <small>ひがしやまさくらそうし</small> を演じ、これがヒットしたことから、江戸庶民の信仰の対象となり、成田山詣の帰路に立ち寄ることが定着していった。	
2-4	成田祇園祭 <small>なりたぎおんまつり</small>	無指定	江戸の祭礼文化を脈々と受け継ぐ門前町の祭礼。成田祇園祭は江戸時代から約300年続く伝統的な行事で、江戸囃子と佐原囃子が融合した全国的にも珍しい祭りである。成田山新勝寺の本尊である大日如来を「ご尊体」とした御輿が渡御し、合わせて各町から10台の江戸型山車や屋台が一斉に繰り出す。	成田市
3-1	香取市佐原伝統的建造物群保存地区 <small>かとりしきわらでんとうてきけんぞうぶつぐんぼぜんちく</small>	重伝建	佐原は、利根川の東遷により小野川が利根川と繋がると、その利根川の舟運と香取街道や銚子道といった陸路との接続点であることから、利根川の代表的な河岸として、江戸への荷の集積地として栄えた都市で、小野川沿いとそれに直交する街道沿いに多くの商家が軒を連ねた。また、佐原は「東の灘」「関東灘」とも呼ばれ、酒造業も発展した。 佐原の町では、旦那衆と呼ばれる豪商達による住民自治が行われ、利根川水運の隆盛とともに、彼らの自主性に富んだ精神と豊富な資金に支えられ、多くの職人衆が江戸から佐原に呼び寄せられた。江戸の職人衆の技と佐原の旦那衆の粋。この交流により、佐原には江戸に優るとも劣らない伝統・文化、「江戸優り文化」が花開いていった。	香取市
3-2	伊能忠敬旧宅 <small>いのうただたかきゅうたく</small>	国史跡	佐原村本宿組 <small>ほんしやくぐみ</small> の名主を務め、酒造業や米穀売買などを家業としていた伊能家。現在は、この地に正門・店舗・土蔵・書院が残る。	香取市
3-3	伊能忠敬関係資料 <small>いのうただたかかんけいしりょう</small>	国宝	物資の流通により江戸を支えた佐原河岸。小野川右岸の商家伊能家の10代当主伊能忠敬は、名主として佐原の繁栄に尽力した。忠敬は、50歳で隠居し、後に江戸に出て、天文学・測量術等を学び、寛政12年（1800）から文化13年（1816）までの10次にわたり日本全国の測量を行った。その成果は「大日本沿海輿地全図」（合計225枚）および「大日	香取市

			本沿海実測録」(全14巻)として忠敬の死後、文政4年(1821)に完成し幕府に上呈された。	
3-4	さわらの だしぎょうじ 佐原の山車行事	重無民	<p>商業で江戸を支えることで、大きく繁栄した佐原。その経済力と、江戸の祭り文化の影響から、佐原囃子の調べにのって、美しく立派な山車を曳きまわす佐原の山車行事が出来上がっていった。山車の飾りは、初めは地元の民の手作りであったが、後には江戸職人による等身大の人形になり、さらに現在の「生人形」と呼ばれる大人形へと変わってきた。特に、「生人形」は浅草で「人形ハ、ヤスモトカメハチ」と謳われた人形師三代目安本亀八などが制作している。</p> <p>佐原の発展なくして、現代まで継承されるこの祭り行事は存在し得なかったといえる。ユネスコ無形文化遺産に推薦されている「山・鉾・屋台行事」の一つにもなっている。</p>	香取市
3-5	かとりじんぐう 香取神宮 (本殿) (楼門) (香取神宮旧 拝殿) (香取神宮 勅使門) (香取 神宮神庫) (香雲閣) (香取神宮拝殿・ 弊殿・神饌所) 神宝類	国宝1件 重文4件 県有形3件 県天記1件 市有形1件 国登録2件	<p>香取神宮は、古くより軍神として信仰され、歴代の武家政権からも武神として崇敬された。</p> <p>本殿・拝殿(現祈禱殿)・楼門などの主な建物は、徳川五代将軍綱吉が造営した。また、香取神宮のシンボリックな楼門の額は海軍大将・東郷平八郎の筆であり、現在も武道分野からの信仰が篤い神社である。</p> <p>江戸時代には、鹿島神宮・香取神宮・息栖神社の「東国三社巡り」と呼ばれるほど篤い信仰を集めた旅であった。伊勢へのおかげ参りより身近にできる北総地域への旅、成田山新勝寺、香取神宮、銚子磯めぐりと、陸路を歩き、船旅を楽しむ旅が人気となり、木下茶船<small>きおるしちやぶね</small>に揺られて旅する香取神宮は、江戸庶民のささやかな贅沢となった。</p>	香取市
3-6	つのみや か し じょうやとう 津宮河岸の常夜燈	市有形	<p>香取神宮の一の鳥居が利根川に面して立つ津宮鳥居河岸。かつてここは、香取神宮への表参道口だった。水運が盛んなころ、渡辺崋山<small>わたなべかざん</small>や赤松宗旦<small>あかまつそうたん</small>など多くの文人墨客がこの地を訪れた。川岸には利根川筋最古の常夜灯1基が燈台の役目として建</p>	香取市

4-1	ちょうしとかわ まちなみ 銚子外川の町並み (大杉神社) (外川ミニ郷土 資料館)	無指定	江戸の人口増加は、より多くの鮮魚の供給を必要とした。江戸前の海だけでなく、銚子沖の漁場からの鮮魚の供給は不可欠なものとなった。 紀州から移住した崎山治郎右衛門が波止場の築港工事を行い、碁盤目状のまちづくりをして、外川港の繁栄の基礎を築き、支えた。 「外川千軒大繁盛」という言葉のとおり外川港は活気に満ち溢れて、江戸からの増加する鮮魚の需要にんでいた。	銚子市
4-2	ちょうしちぢみ 銚子縮 (銚子ちぢみ 伝統工芸館)	県無形	漁業の町銚子。「底板一枚下は地獄」といわれるほど厳しい漁に出かける漁師の家を守る女性が出漁の安泰と豊漁を祈り、木綿の織物を生産した。各家で織った銚子縮は集荷され、高瀬船に積まれて利根川を遡り、江戸の花街などに出回り、江戸の粋を表す織物としてもはやされ、全国にその名が知られた。 地元の網本や船頭はこの銚子縮を使った万祝を着用していた。	銚子市
4-3	ちょうしだいりょうぶし 銚子大漁節 (川口神社) (万祝) まいわいしきたいりょうばた (萬祝式大漁旗) おざわそめこうじょう (小澤染工場) ぬかが や そめこうじょう (額賀屋染工場)	無指定	銚子の漁業を象徴する民謡。元治元年(1864)、長引く不漁から未曾有の豊漁となり、漁師たちが感謝の意を表すために唄を作り、漁船の守り神である川口神社に奉納した。この歌詞には、江戸期の銚子の漁業の場景が盛り込まれている。 銚子大漁節は暮らしに溶け込んだ大切な歌であり、各町内会にある鳴り物保存会が継承している。また、鳴り物の中には、「はね込み太鼓」や「はね太鼓」と呼ばれる技法があり、勇壮な見せる太鼓として人気が高く、国内外で演奏会を開催している。 また、この唄は小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が「漁師の教え歌」として英訳している。	銚子市
4-4	きゅうにしびろけじゅうたく 旧西廣家住宅 ・主屋 ・缶詰工場 ・倉庫(北倉・南倉) ・煉瓦塀 (メ粕及び干鰯製造 関係資料)	国登録 無指定	紀州から移住し、江戸時代末以降の銚子漁業を支えた船主の一人である。当時、銚子沖であがった鰹は「鰹の生腐れ」といわれるように足の速い魚であった。西廣家では鰹節生産を開始し、鮮魚だけではなく、加工品でも江戸の食文化を支えた。 また、豊漁の鰯は、綿花栽培の肥料として重要なメ粕や干鰯の生産を支えた。	銚子市

	(漁業の道具)			
4-5	磯角商店 石上酒造 ・米蔵 ・麴室 ・仕込蔵 (醪蔵) ・貯蔵蔵 ・文庫蔵	国登録 国登録	利根川河口に位置する銚子湊は、東北からの東廻り海運の中継地として栄え、商港の役割も担っていた。利根川河口は浅瀬が多く、大型の船舶の運航は困難であった。そこで高瀬船に荷を積み替えるため大量の物資が集積され、湊の周辺の廻船問屋は「気仙問屋」と呼ばれるようになった。磯角商店はその廻船問屋のひとつで、建物は各地から運びこまれた部材を使い、当時の湊の賑わいを伺い知ることができる建物である。湊には航海中に必要な生活物資を購入できる商家もあり、石上酒造もその一つである。	銚子市
4-6	銚子の醤油醸造 (①玄蕃井戸) (②ヤマサ資料館) (③ヒゲタ史料館) (④山十商店) (小倉醤油)	無指定	銚子の調味料が江戸の食文化を変えたと言われる銚子の醤油醸造。江戸の発展を支える労働力であった“江戸っ子”には色・味・香りが良く、味付けの濃い「関東風の醤油」が好まれた。これが、蕎麦、てんぷら、鰻の蒲焼、寿司など今に続く江戸の食文化を花開かせた。 銚子の醤油醸造は、元和2年(1616)に摂津国の酒造家の教示により飯沼村の田中玄蕃、正保2年(1645)には紀州から移ってきた濱口儀兵衛が事業に着手した。銚子の事業家は、文化や医療など多方面にわたり江戸と銚子をつなぐ役割を担っていた。	銚子市
4-7	銚子の磯巡り (①妙見様) (②飯沼観音) (③浄国寺) (④犬吠埼の白垂 紀浅海 堆積物) (⑤千騎ヶ岩) (⑥犬岩) (⑦屏風ヶ浦) (⑧紙本淡彩銚子 名所絵図)	国名勝・天記1件 県天記1件) 市有形	東国三社詣(香取・鹿島・息栖)のオプションツアーとして銚子周遊の小旅行が江戸っ子に人気を博した。 「銚子の磯巡り」は、妙見宮や飯沼観音(銚子の観音様)として知られ、円福寺などの寺社や「葦鹿嶋」「犬吠ヶ崎」「仙ヶ岩屋」など激しい波浪により生み出された奇岩からなる自然景観などをめぐる旅。中でも、「犬若」「名洗浦」からは、目の前に屏風ヶ浦の断崖絶壁が続き、遠くに富士山を望むことができる、富士見の名所として古くから人気があり、歌川広重の浮世絵の題材にもなっている。	銚子市

4-8	<small>ぎょぎょう</small> 漁業 の <small>しんこうかんれん</small> 信仰関連 <small>しりょう</small> 資料 <ul style="list-style-type: none"> ・川口神社 ・和田不動 ・漕出<small>こいで</small> ・大潮まつり ・奉納絵馬<small>せんになづか</small> ・千人塚 	無指定	<p>厳しい漁に出かけ、海の恵みで暮らしを支える漁師たちは、大漁と航海の安全を祈る信仰を大切に継承している。</p> <p>川口神社は漁船の守り神であり、一年の最初の出漁時には、豊漁と安全を祈り、大潮の日は神輿を担ぎ市内を練り歩く。</p> <p>利根川河口は、川幅が狭く、干満時の潮の流れが急で、海の難所であるとされ、千人塚は銚子沖周辺で遭難した人々を祀っている。</p>	銚子市
-----	---	-----	---	-----

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

○佐倉<城下町>



1-1 堀田氏の居城 (市史跡 佐倉城跡)



1-6 重要文化財旧堀田家住宅・国名勝旧堀田正倫庭園



1-2 石高150石の武家屋敷 (市有形 旧但馬家住宅)



1-7 大老と老中の墓 (県史跡 堀田正俊・正睦・正倫墓)



1-3 城下町佐倉の町並み (国登録建造物 旧今井家住宅)



旧佐倉藩資料を展示 (国登録建造物 佐倉高校記念館)



1-4 近代医学発祥の地 (県史跡 旧佐倉順天堂)



1-8 洋書 (県有形文化財 鹿山文庫 (ハルマ和解等))

○佐倉



1-9 江戸型山車(市有民/市無民 城下町佐倉の祭礼)



1-10 佐倉藩主が江戸参府の際に賞味した
加賀(かが)清水(しみず) (無指定)



1-11 佐倉藩の「武」の粋を今に伝える
ぶじゅつたつみりゅう
武術立身流(県無形)



1-12 紫裾濃(むらさきすそこ)胴(どう)丸



(県有形)

1-13 城下町佐倉の生活文化を紡ぎだす好資料
古今(こきん)佐倉(さくら)真(ま)佐子(さこ)および
総州(そうしゅう)佐倉(さくら)御城府内之図(ごじ
ょうふないのず)



(市有形)

1-14 土井(どい)利(とし)勝(かつ)父母(ふぼ)夫人
(ふじん)供養塔(くようとう) (市史跡)

○成田<門前町>



2-1 大勢の参拝客で賑わう成田山新勝寺の大本堂



2-2 成田土産の一粒丸を販売(国登録建造物 三橋薬局)



2-1 旧本堂 (重要文化財 光明堂)



2-3 義民木内惣五郎の墓もあり成田参詣者も訪れた宗吾霊



2-1 七代目團十郎の石像も奉安(重要文化財 額堂)



2-4 門前の町並みと山車(成田祇園祭)



2-2 門前町のうなぎ屋(国登録建造物川豊本店店舗)

○佐原<河岸・宿場町>



3-1 伝統的な町並み (佐原重要伝統的建物群保存地区)



3-4 佐原の大祭 (重要無形民俗文化財 佐原の山車行事)



3-2 伝統的な町並み (県有形文化財 伝建保存地区)



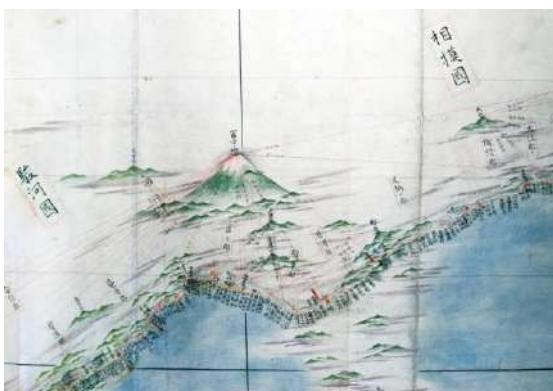
3-5 朱色も鮮やかな楼門 (重要文化財 香取神宮楼門)



3-2 伊能忠敬の店 (国史跡 伊能忠敬旧宅)



3-5 東国の守護漆黒の本殿 (重要文化財 香取神宮本殿)



3-3 伊能忠敬が描いた地図 (国宝 伊能忠敬関係資料)



3-6 ここで舟から下りて神宮の参道こ (市有形 津宮河岸の常夜灯)

○佐原



3-7 観福寺 (重要文化財・市史跡)



3-8 天真正伝香取神道流始祖飯篠長威斎墓
(県無形・県史跡・市有形)



3-7 観福寺 (銅造十一面観音坐像)

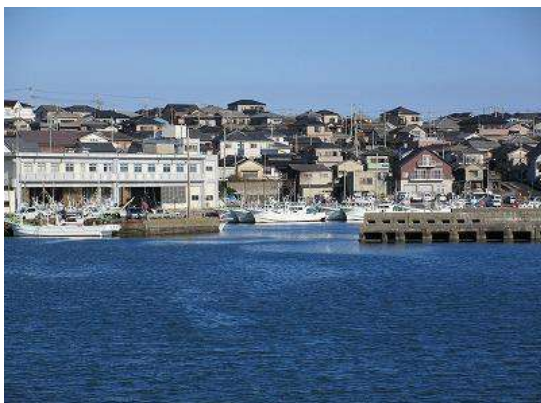


3-9 初代松本幸四郎墓 (県史跡)



3-7 観福寺 (伊能忠敬墓)

○銚子<港町>



4-1 斜面に基盤目状に造られた 外川の町並み



4-1 江戸時代の区画が残され、道が直交している外川の町並み



4-2 漁師の女性たちが織り始めた銚子縮 (県無形)



4-3 銚子大漁節にも謳われた海の神川口神社の大潮祭り



4-3 萬祝式大漁旗 (額賀屋染工場)



4-4 漁師の軒屋 (国登録旧西廣家住宅)



4-4 主屋 (国登録旧西廣家住宅)



4-4 佐吉工場 (国登録旧西廣家住宅)



4-4 倉庫 (国登録旧西廣家住宅)



4-4 倉庫 (国登録旧西廣家住宅)



4-4 煉瓦塀 (国登録旧西廣家住宅)



4-5 廻船問屋 (国登録磯角商店主屋)



4-5 米蔵 (国登録石上酒造)



4-5 麹室 (国登録石上酒造)



4-5 仕込蔵 (醸蔵) (国登録石上酒造)



4-5 貯蔵蔵 (国登録石上酒造)



4-5 文庫蔵 (国登録石上酒造)



4-6 千葉県下総国海上郡銚子町醤油醸造家浜口儀兵衛店部分



4-6 小倉醤油



4-6 1616年創業 ヒゲタ醤油、1645年創業ヤマサ醤油



4-7 浄国寺



4-7 六十余州名所図会
下総銚子の浜外浦
(歌川広重)



4-7 屏風ヶ浦
(国天然記念物)



4-7 紙本淡彩銚子名所絵図



4-7 千騎ヶ岩
(国天然記念物)



4-7 犬吠埼白亜紀浅海堆積物 (国天然記念物)



4-7 犬岩 (国天然記念物) と富士山



4-8 漁業の信仰関連資料(漁船の守り神川口神社)

○ガイド施設
国立歴史民俗博物館



佐倉城跡に建てられた国立歴史民俗博物館



展示のようす

房総のむら



再現された江戸から明治の町並み（商家の町並み）



農村歌舞伎舞台で民俗芸能の公演



甲冑試着体験



お茶のお手前の体験



再現された囲炉裏

日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
23	<p>「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」</p> <p>－佐倉・成田・佐原・銚子:百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群－</p>

(1) 将来像 (ビジョン)

日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会 (以下、協議会) では、将来のあるべき姿を次の通り設定した。

**北総四都市に残る「江戸」を通じて、
歴史文化の豊かさを学び・語り・共感しあえる地域をめざす。**

この将来像の実現にあたっては、北総四都市江戸紀行の特性・強みと現代社会の抱える課題との関連を検討し、目標となる4つの状態を掲げた。

(1) 北総四都市江戸紀行の特性・強み

北総四都市は、東京から 100 km圏内の文化観光地であり、世界だけでなく国内各地を結ぶ成田国際空港を抱えることから、一大消費地をターゲットとした際の地理的要件に恵まれている。また、ほどよい田舎感を残す四都市は利便性と快適さを両立した住みやすい街としても評価されている⁽¹⁾。

近世日本の中心で当時としても世界有数の都市であった「江戸」に関わる歴史文化は、国内外を問わず高い人気を持ち常に注目されている。日本の歴史を振り返った時にも、「江戸」の町が文化遺産として最も重要なものの一つに位置づけられるべきであるが、現在の東京では面的にこれが残されている箇所が乏しい。これに対して北総四都市は、「江戸」という歴史的な大都市と深く結びつきながら、各々の特性を発展させ、現在の東京では失われた江戸の趣きを残す町並みと文化財が顕著に残っている。例えば、佐倉の武家屋敷、成田山新勝寺、香取神宮といった歴史的建造物や佐原の商家、銚子外川の港町の町並みや佐倉城跡、屏風ヶ浦などの史跡・自然景観といった構成文化財は、ロケーションとしての魅力が高く、ビジュアルを通じた訴求力があり、これを活用することで日本遺産のストーリーを感じる機会を提供していくことが可能となる。

また、千葉県の歴史は複雑な要素が絡んでおり、県民に知られている歴史・ストーリーも限られている。その中で、北総四都市は千葉県内でも有数の歴史資源が残る地域であり、「千葉県総合計画～千葉の未来を切り開く～ 『まち』『海・緑』『ひと』がきらめく千葉の実現」においてもその豊富さが掲げられている。そして、今後3年間 (令和4～6年度) で重点的に取り組む政策・施策において、多様な「ちば文化」のブランド化の主要な活用素材として位置付けられている。このように北総四都市江戸紀行は、県の観光資源に歴史的な魅力を付加・強化し、千葉の楽しみ方を多様化させることに貢献できる。

(2) 現代社会の抱える課題との関連

日本遺産の活用の主軸の一つである観光について、令和時代の新しい観光を考えた時に、コロナ禍の影響は大きく、「地域移住」への関心がより高まり、「ワーケーション」「多拠点居住」といった新たなライフスタイルの模索が進んでいる。このスタイルにおいては、その地域の歴史や文化についての探求や現地での交流といった“学びと交流”が観光の要素として重要視されるようになってきている。そうし

¹ 日経 BP 総合研究所が運営するウェブサイト「新・公民連携最前線」が実施した『シティブランド・ランキング～住みよい街 2021～』 (<https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/072500036/072700003/>) で佐倉市が「快適な暮らし」分野で全国1位を獲得。

た傾向を反映し、教育旅行や企業研修、その他“大人の学び旅”といったタイプの観光が再注目され、そのニーズはより高まっている。また、こうした地域の学びや住民との交流といった要素は、地域の“ファンづくり”にもつながるものであり、自治体が目指す関係人口拡大にも寄与すると考える。

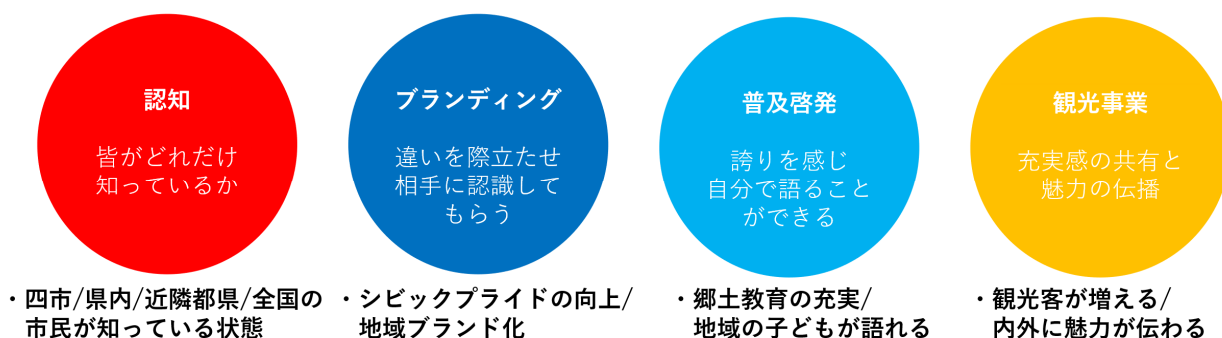
また、情報が溢れかえる社会の中で、SNS 等を通じて他の人とつながりたい・共感してほしいという欲求が強まっている。写真や動画といったビジュアルに訴えかける媒体が SNS 等を通じて共有されることによる共感の創出が、若い世代を中心に日常的に行われている。コロナ禍によりさらに情報が錯綜・混乱する中でこの欲求は増大している。観光同様、日本遺産活用の観点から重要な、こうした消費に対する動向、考え方の変化についても留意したい。これまでのモノを買うだけ／見るだけの“モノ消費”と体験価値の提供による“コト消費”から、個人の体感を共感・つながりへ結ぶ“トキ消費”、さらにはこの共感が繰り返し再現される“イミ消費”への移行がそれである。この消費に対する考え方の変化は、日本遺産との関わりも指摘されおり⁽²⁾、ストーリーをどのように伝えるのか、今後の将来像を描くうえで留意すべき事項の一つである。

(3) 目標となる 4 つの状態

協議会では、認定以降、北総四都市江戸紀行の魅力伝える媒体の整理・作成、魅力発信、体験プログラムの調査・造成と来訪者データの調査等を行うなど、モノ・コト消費に対する整備を進めた。その過程では、わかりやすい「江戸」を感じる歴史コンテンツが充実しているとの外部からの高い評価も受けている⁽³⁾。一方で、共感を生みそれが継続されることが求められるトキ・イミ消費に対する整備は、民間の巻き込み等に課題を残し、充分であるとは言えない。

北総四都市江戸紀行は、東京近郊のほどよい田舎感と豊富な「江戸」を感じる歴史コンテンツを備えた日本遺産である。構成文化財のロケーションとしての魅力、ビジュアルの訴求力といったポテンシャルを活かすことで、地域の歴史文化を知る・触れることへの親和性が高く、共感を生むしかけ・きっかけづくりの土壌があると言え、今後もその特性・強みを活かすことでこうした時代の変化にも対応していくことができる日本遺産であると位置付けられる。

これまでに述べた北総四都市江戸紀行の特性・強みと現代社会の抱える課題、これまでの協議会の取組を踏まえ、北総四都市の構成文化財への還元、域内の文化資源の保存・継承と活用の好循環を生み出し、将来像の実現につなげるために、次の 4 つの状態を目標として掲げる。



今後は、これらの状態を具体的に実現する戦略を設定し、地域活性化のための取組を推進する。この活動を通じて、地域の人々・次世代を担う人々が北総四都市の豊かな歴史文化を学び、愛着を持ち、語り、活かすことで地域に誇りを感じ、生活に充実感が共有され、国内外に北総四都市の魅力への共感が伝播することをめざしていく。

² 井門隆夫「本物性と一貫性のある物語で」『週刊トラベルジャーナル』第 58 巻第 33 号、株式会社トラベルジャーナル、2021 年

³ NIKKEI トラベル クローズアップ 日本遺産 10 選のうち第 4 位に選出。<https://style.nikkei.com/article/DGXMZ053223720R11C19A2W01001/>

(2) 地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-A：構成文化財・ガイダンス施設等の入れ込み数（人）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	11,702,402	3,336,181	4,892,521	5,400,000	6,000,000	6,600,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	これまでも把握してきた武家屋敷（佐倉市）・新勝寺（成田市）・伊能忠敬記念館（香取市）・地球の丸く見える丘展望館（銚子市）の入込数の合計。毎年度、対前年度比で約10%の伸び率の達成を設定。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：校外学習・教育旅行で北総四都市の構成文化財等を訪れた学校数（校）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	66	41	126	140	150	160
目標値の設定の考え方及び把握方法	四都市以外の地域からの来訪も含む。2021年の数値を基準とし、年10校程度の増加を見込む。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-A：学習プログラムにより理解を深めた北総四都市内の小中学校の割合（%）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	—	—	—	—	20	40
目標値の設定の考え方及び把握方法	学習プログラムの作成は2023年度中に完成の予定。四都市内の小中学校は、合計で94校（2021年度現在）					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：ワーケーション、ロングステイ、教育旅行等の宿泊者数（人）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	—	—	—	—	100	200
目標値の設定の考え方 及び把握方法	ツアー造成・販売開始は2023年度中の見込み。ツアーの販売実績、受入実績から数値を把握する。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産のための協賛金・ふるさと納税などによる支援の件数（件）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	—	—	—	100	150	200
目標値の設定の考え方 及び把握方法	構成自治体のふるさと納税に日本遺産の保存・活用のメニューを加えながら、支援を伸ばしていく。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：北総四都市の観光入込客数（人）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	26,448,336	15,270,723	14,992,128	15,450,000	16,000,000	16,500,000
目標値の設定の考え方 及び把握方法	各市の観光入込客数を合計して集計。毎年度、対前年度比で約3%の伸び率を見込む。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－B：北総四都市の宿泊者数						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	1,935,910	1,090,579	1,006,041	1,100,000	1,210,000	1,331,000
目標値の設定の考え方 及び把握方法	各市の宿泊者数を合計して集計。毎年度、対前年度比で約10%の伸び率を見込む。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

北総四都市江戸紀行の特性・強みを考え、目指す将来像（ビジョン）を実現しようとする時に、誰に向けて（**ターゲットの設定**）、どのように事業を展開していくのか（**戦略の方向性**）の確認を行い、地域活性化のための取組の概要をここで述べる。

1、ターゲットの設定

ターゲットの設定にあたっては、北総四都市江戸紀行の特性・強みを訴えるうえで、どの地域のどのような人々（属性）が有効かを勘案し、次の5つのエリアと4つのターゲット層を設定した。

(1) ターゲットの地域性（5つのエリア）

エリアの設定にあたっては、地域の活性化の根幹である北総四都市のほか、平成30年度に行なった来訪者市町村別データ調査の結果を活用し、より有効的なエリアを見出すとともに、域内に位置する成田空港との連携を踏まえたものとした。



①は、佐倉市、成田市、香取市、銚子市の四都市。この地域は、認知・ブランディングの向上にあたって不可欠であり、観光事業、普及啓発を通じた地域活性化を担う人材は主にこの地域から掘り起こすこととなる。

②は、県内では、中央・西地域の近隣市（千葉・市原・習志野・市川・船橋・松戸・柏・浦安など）、人口約523万人。県内の人口の約8割が集中しており、来訪実績も多い。

③は、特に来訪実績が多い東京23区、川崎・横浜を想定。これらのエリアの人口は、約1479万人。今後、圏央道や北千葉道路など千葉県と接続する交通インフラの整備により、さらにこれらの地域からの来訪が見込まれる。

④は、北総地域と接する県南・鹿行地域を想定。エリアの抱える人口は約128万人で茨城県の人口の6割以上を占める。東京・神奈川に比べ周辺に競合するコンテンツが少なく、地域としても互いに馴染みが深い。

⑤は、現在、国内20都市21路線が就航。国内線利用者数は、コロナ禍前の2019年に約764万人と過去最多を更新していた。成田空港活用協議会と連携し民間事業者と共に事業を行うことが可能。連携を深めることで将来的なインバウンド需要にも対応できる体制構築につながる。

(2) 特性・強みが活かせる4つのターゲット層

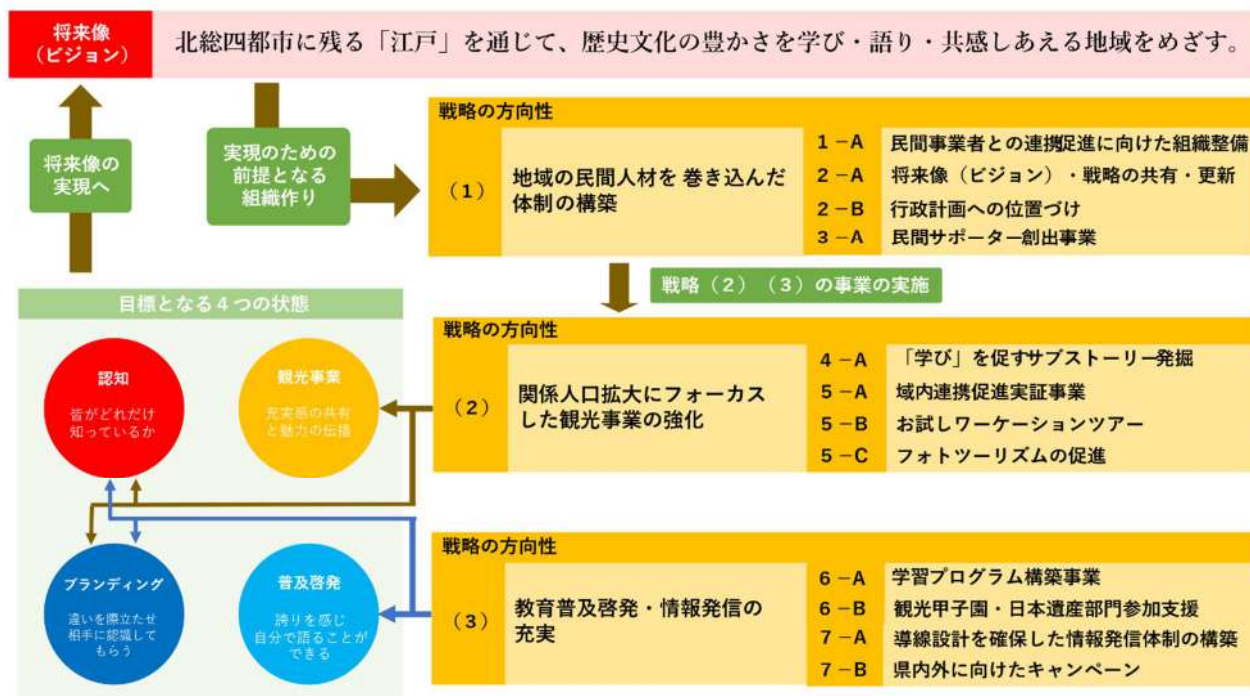
そして、5つのエリアの中の、先に述べた令和観光の動向（ワーケーション・多拠点居住・教育旅行）を勘案、消費に対する考え方の変化を踏まえてマーケットとして将来有望な層にアプローチすることとし、次の4つの層を視野に入れた。

- ①ワーケーション志向、多拠点移住志向のある層
- ②移住志向・子育て環境に関心のあるファミリー層
- ③SNSでの情報発信を積極的に行う若い世代（10代後半～30代）
- ④学習の機会の多い層（児童・学生・若手社員）

①は、どこでも働ける中で密を避け快適に暮らし・働ける場所を求め、流行や情勢の変化に敏感で幅広い世代に影響力を持っている。②は、子どもの教育や住環境に関心が高く、これらに配慮して移住する可能性が高い層である。③は、SNSを通じた情報発信に強く関心を持ち、体感したことを自ら発信することで共感の創出へつながることが期待される。④は、学びの機会に関わり、日本遺産、文化財の保存・活用を担う地域の人々、次世代の人々を含んでいる。また、子ども世代の④へのアプローチが親世代の②への興味関心を生み出し、取組の効果が波及することも期待される。このように、各層の動向は独立したものではなく、それぞれのニーズに関心を払いながらも、その関係性も踏まえた戦略と取り組みを行っていく。

2、戦略の方向性

将来像（ビジョン）の実現のため、3つの戦略の方向性を設定した。この戦略の方向性と将来像、目標となる4つの状態の関連性を図示すると次の通りである。続いて、協議会が抱える課題とともに戦略の方向性と個別の事業について述べる。



(1) 地域の民間人材を巻き込んだ体制の構築

まず、これまでの協議会の活動の課題として、組織整備・戦略立案・人材育成の面で、将来像（ビジョン）の共有とその徹底、自走化に向けた民間の巻き込み、民間人材・けん引役の見出しが挙げられる。目標となる4つの状態を実現し、将来像へ近づくためには、その前提となる組織体制の整備・

民間の巻き込みをより確実なものにする必要がある。そのために、①協議会と各事業者をつなげるハブとしての役割をなし、民間事業者との連携促進に向けた実行組織を整備（1-A）②定期的な担当者会議の開催を通じて将来像・戦略を共有・更新し（2-A）、文化財保存活用地域計画などの行政計画へ日本遺産の保存・活用を位置づけ継続性を担保する（2-B）。そして、③観光事業、普及啓発、情報発信に参画する民間サポーターの創出（3-A）といった取組を今後3年間の中で行う。これらの実施により、行政と民間が協働しそれが継続していく体制・組織が整備されることを目指す。

（2）関係人口拡大にフォーカスした観光事業の強化

次に、整備・観光事業化の面では、体験からサブストーリーの深掘り、体験と拠点をリンクさせるモデルルート・観光商品の開発などが課題となっている。また、観光客を増やすのはもちろんのこと、観光を通じて体感したストーリーをどのように共有し、シビックプライドの向上につなげていくのかも課題として挙げられる。これらの課題解決を図るために、①北総四都市江戸紀行の特性・強みを活かした「学び」を促すサブストーリーを発掘（4-A）し、各事業の前提となる素材を提供する。そして、②域内連携のため教育旅行、ワーケーション促進などターゲットに向けた商品・プログラムの開発、販路の拡大と確保（5-A）③お試しワーケーションツアー（5-B）により、学びを促進する観光商品と販路の整備を進め観光事業の強化を図る。あわせて、共感の創出につなげるためにSNSを活用したフォトツーリズムの促進（5-C）も行う。これらの実施により、関係人口の拡大の端緒としての観光の強化、地域ブランドとして北総四都市江戸紀行の良さ、魅力の伝播を目指す。

（3）教育普及啓発・情報発信の充実

普及啓発・情報発信の面では、個別の事業を行う中で、将来像（ビジョン）を反映した学びの機会の提供や効果の高い事業の繰り返し・徹底が不足していたことが課題として残っている。そのためには、学びを促進し自ら語ることができる環境の充実、認知の向上を図る情報発信が必要となる。これに向けては、①教育現場での郷土教育・学習プログラムの作成と定着化（6-A）、全国の高校生が観光動画の出来栄を競う観光甲子園・日本遺産部門への参加促進（6-B）といった教育普及を行う。また、各種事業の周知を通奏する②発信から来訪までの導線設計を確保した情報発信体制の構築（7-A）、県内外に向けたキャンペーン（7-B）といった取組を行う。取組を行い各種事業の認知向上、日本遺産事業を通じた地域ブランディングをはかる。これらの実施により、北総四都市江戸紀行の学びの促進へとつながり、誇りを感じ自分で語ることができ、共感が繰り返し再現される地域になることを目指す。

（4）実施体制

（1）北総四都市江戸紀行活用協議会のメンバーと役割分担

協議会は、県・四市の行政（文化財部門、観光部門）のほか、各市の観光協会・商工会議所、千葉県観光物産協会、房総のむら、国立歴史民俗博物館、文化財施設といったガイダンス施設等によって組織されている。今後の実施体制について、大きく検討を加えたのは次の2点である。

①プロデューサー・アドバイザーの設置

プロデューサーは、取組全体の監修を行い、将来像（ビジョン）・戦略・取組に関する方向性を導く役割を担う。地域の実情や文化観光に明るい人物が望ましく、民間との連携の窓口役も務める千葉県観光物産協会・ちばプロモーション協議会から招聘する。アドバイザーは、事業の設計・実施にあたっての助言、取組の実績について外部からの視点による評価を行い、将来像（ビジョン）・戦略・取組に関するレビューに参画する。日本遺産の取組・制度に精通した人物が望ましく、日本遺産プロデューサーを務めた経験のある人材に依頼をする。

② 3つのワーキンググループを組織

そして、役割分担を明確にし着実に事業を進めるべく3つのワーキンググループを組織する。

① 普及啓発・学校連携

学びの促進のため、県と四市の文化財部門（教育委員会部局）、ガイドンス施設、民間サポーターにより構成・担当され、教育委員会・学校を支援し連携を深める取組を行い、日本遺産を活かした郷土教育の充実を図る。担当する主な事業は、「学び」を促すサブストーリーの発掘（4-A）、学習プログラムの作成と定着化（6-A）、観光甲子園・日本遺産部門への参加促進（6-B）といった教育普及の取組である。取りまとは、千葉県文化財課が担当する。

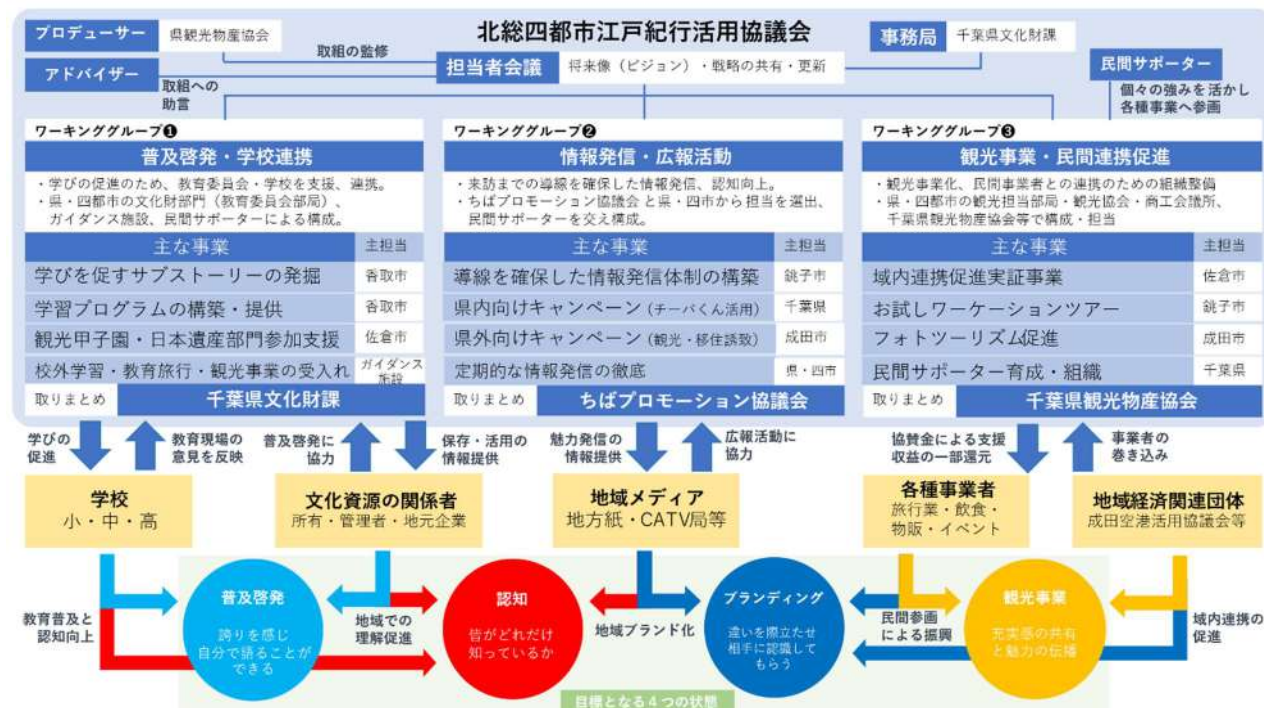
② 情報発信・広報活動

認知・興味関心・予約購買・来訪の導線を確認した情報発信、認知・ブランディング向上のため、ちばプロモーション協議会、県・四市から担当を選出し民間サポーターを交え構成される。担当する主な事業は、発信から来訪までの導線設計を確認した情報発信体制の構築（7-A）、県内外に向けたキャンペーン（7-B）等を担う。取りまとは、ちばプロモーション協議会が担当する。

③ 観光事業・民間連携

観光事業化、民間事業者との連携のため、県と四市の観光部門・観光協会・商工会議所、千葉県観光物産協会により構成される。担当する主な事業は、民間サポーター創出事業（3-A）、観光事業化の取組（5-A・B・C）である。とりまとは、千葉県観光物産協会が担当する。

以上の協議会の新たな実施体制と協議会外の組織・団体との関わり、目標となる4つの状態の関係を図示すると次の通りとなる。



(2) 行政以外の組織・団体との連携について

協議会の課題である行政以外の組織・団体との連携について、千葉県観光物産協会やちばプロモーション協議会、各市観光協会・商工会議所、民間サポーターとは、協議会のワーキンググループにおいて、先に挙げた取組をそれぞれの特性を活かしながらか進めていくこととなる。

協議会外の組織・団体は、先の図で少し触れているが、次の表に想定される連携を図る組織・団体とその連携の内容をまとめた。

組織・団体		連携内容	協議会の連携相手
学校 (小・中・高)		サブストーリーの発掘、学習プログラムの構築・活用	普及啓発・学校連携WG
		校外学習・教育旅行の誘致・実施	
文化資源の関係者 (所有・管理者・地元企業)		サブストーリーの発掘、学習プログラムの構築・活用	普及啓発・学校連携WG
		日本遺産活用に関わる情報の共有	情報発信・広報活動WG
		校外学習・教育旅行・各種ツアーの受け入れ	観光事業・民間連携WG
地域メディア (地方紙・CATV局等)		北総四都市江戸紀行の魅力発信・キャンペーン協力	情報発信・広報活動WG
		観光甲子園・日本遺産部門参加支援における参加校への助言	普及啓発・学校連携WG
各種事業者	旅行事業者	域内連携促進・販路拡大、ワーケーションツアー実施への協力	観光事業・民間連携WG
		校外学習・教育旅行の誘致・実施	
	飲食・物販事業者	ワーケーションツアー・フォトツーリズム関連事業への協力	観光事業・民間連携WG
		県内外向けキャンペーンへのグッズ・物品の提供	情報発信・広報活動WG
イベント事業者	撮影イベント・コンテスト等のフォトツーリズムに関連する事業の開催	観光事業・民間連携WG	
地域経済関連団体 (成田空港活用協議会等)		域内連携促進・販路拡大	観光事業・民間連携WG

[人材育成・確保の方針]

今後3年間の地域活性化計画において、人材育成・確保の面で大きく見直しを図ったのは、民間の巻き込みの促進のために次の2点である。この点を踏まえた組織整備を図り、行政に民間の力を加え、北総四都市江戸紀行を通じた地域活性化につなげていく。

①千葉県観光物産協会をけん引役、民間事業者との連携窓口化

協議会における推進体制の再構築にあたり、協議会構成団体のひとつである千葉県観光物産協会との連携を深め、地域経済関連団体や旅行業・飲食・物販・イベント業などの民間事業者と協議会をつなぐ窓口としての機能を担うことを想定している。体制の構築にあたっては、事務局と物産協会において協議の場を設け、今後の体制のあり方の具体的な調整や協働して実施することができる取組の検討と実施を進め協力体制を深める。

②民間サポーターの組織化

北総四都市江戸紀行を通じた地域の活性化のために、事業に関わる人材を見出し、民間サポーターとして各種事業への参画を促す。地元住民やガイド人材、大学生、企業、クリエイターなど従来からの構成各市の活動に参加していた地域プレイヤーを中心に、北総四都市江戸紀行の各種事業の実施に向けて協働が可能な人材・組織・団体の巻き込みを進める。四都市の構成文化財等の魅力を見つめ直し、その特性・強みは何かを検討し共有するワークショップを協議会全体やワーキンググループ単位で実施する。ワークショップを行う中で関係性を高め、協議会の活動への参画意識の醸成を図る。そして、民間サポーターの組織化にあたっては、これらワーキンググループをプレイヤーの個々の才能・強みを活かすことができる場・アウトプットの場としていくことを念頭に置き、各種事業への参画を促す組織とすることを想定している。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

(1) 北総四都市ファンの受け皿としてのふるさと納税

協議会では、文化庁からの補助金のほか、各市からの負担金を基本的な財源として事業を行ってきた。加えて、協議会の取り組みに賛同する方からの賛助金による協議会の活動への支援を行う取り組みにより財源を確保しようとしてきた。

今後は、先に述べた地域活性化の取組を進め、認知が進み地域ブランディングの向上を促進することで、より支援の気運が醸成されることが期待される。そのため、こうした支援の気運を具体的な支援の輪として広げ、受け皿を整備し、さらなる自主財源の確保へつなげていくことが必要となる。

すでに佐倉市では、日本遺産の活用推進を用途指定したふるさと納税を日本遺産活用推進事業の財源に充てており、受け皿を整備している構成市もある。今後はよりその受け皿を広げていく。銚子市では文化財保存活用地域計画の中で、ふるさと納税を自主財源とする取り組みを検討することを位置付けている。加えて、千葉県でも同様のシリアル型の日本遺産（政宗が育んだ“伊達”な文化：宮城県）などの先行事例を参照し、用途指定のふるさと納税を導入することを検討する。

(2) 初期投資財源としての補助金・助成金の導入と事業収益の還元について

こうした自主財源のほか、初期投資財源として、他関連団体との連携や各種補助・助成金の導入をはかる。関連団体としては県・各市が連携会員となり成田空港を活用して県の経済を活性化することを目的としている成田空港活用協議会が挙げられる。この協議会とは連携して事業を行った実績もあり⁴⁾、今後も連携を図り、民間事業者を巻き込みながら事業を実施することも視野に入れている。

また、各種補助・助成金の導入の点では、文化庁、観光庁などの国の補助金のほかに、例えば、千葉県が交付する市町村以外の民間団体を含む観光関連団体を対象とする観光コンテンツ高付加価値化促進事業の補助金などもある。こうした補助金を協議会または域内の民間事業者が受け皿となり事業を実施することも視野に入れている。民間事業者との連携にあたっては、協議会は構成文化財を活かした商品の開発、事業づくりにあたって情報提供や支援を行い、日本遺産としての活用が促進されるように努める。その結果として、収益の一部が協議会に還元される仕組みを検討する。

このように他関連団体と連携を深め、初期投資財源として補助金・助成金を位置づけ、協議会または事業を行う関連団体が自立しながら、各種の事業を行うことをはかる。

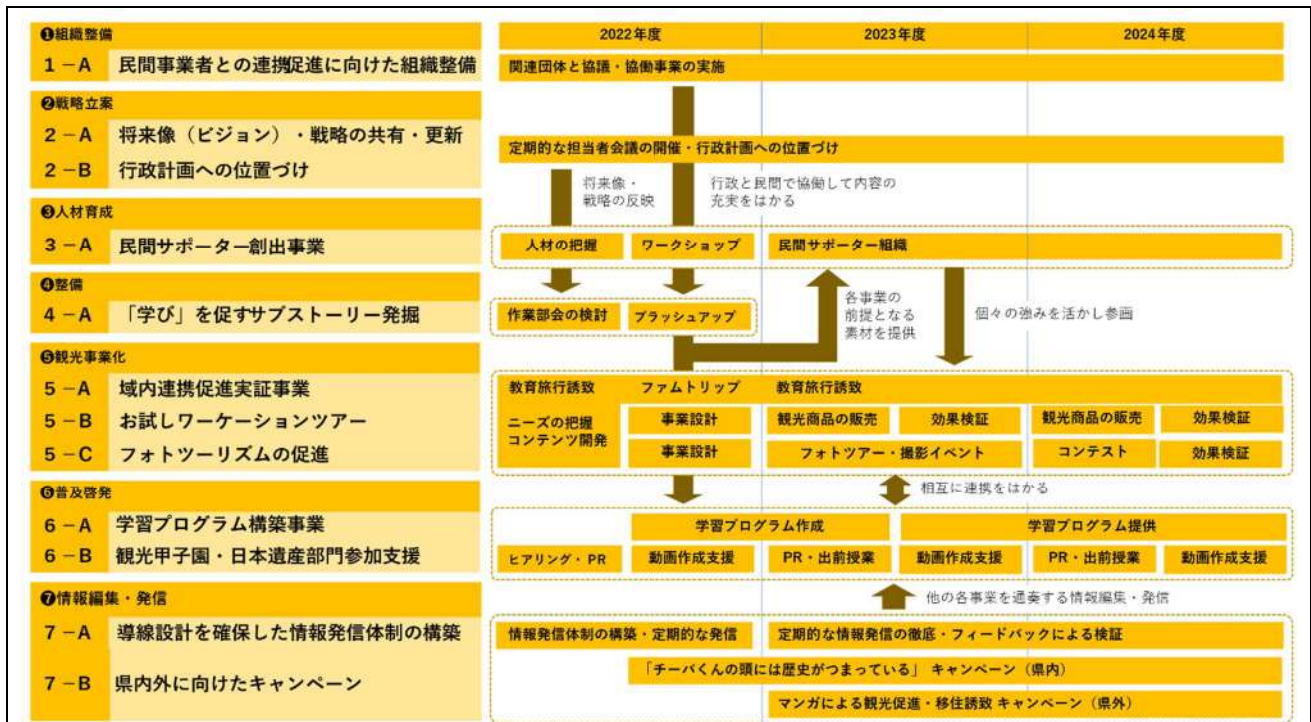
(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

(1) 地域活性化のための各取組の関連性

この計画で位置づけている取組について、まず、1年目にあたる2022年度中に推進体制の再構築を図り、行政と民間で協働として実施可能な事業を行っていく。また、整備の取組は他の観光事業化・普及啓発の取組のもととなる素材を提供するものとなるため、将来像・戦略を反映させ同年度中に方向性を固めていく。人材育成、観光事業化、普及啓発の取組はこれを基本にし、相互に連携を図りながら事業を進める。

2年目にあたる2023年には人材育成、観光事業化、普及啓発の取組が本格化していく。そして、相互に連携を図りながら3年目へと事業を継続させていく。この地域活性化計画で位置づけている各取組の関連性と今後3年間の内の取組の見通しを図示すると次の通りである。

⁴ 成田空港活用協議会と（株）近畿日本ツーリストと連携し県内の交流人口拡大と訪日外国人増加に向けたツアー造成を目的とした「日本遺産等を活用した誘客促進事業」を令和元年度～3年度に行っている。（参考）<https://www.nrt-promo.jp/%E6%9C%80%E6%96%B0%E6%83%85%E5%A0%B1-1/#cc-m-header-13940201188>

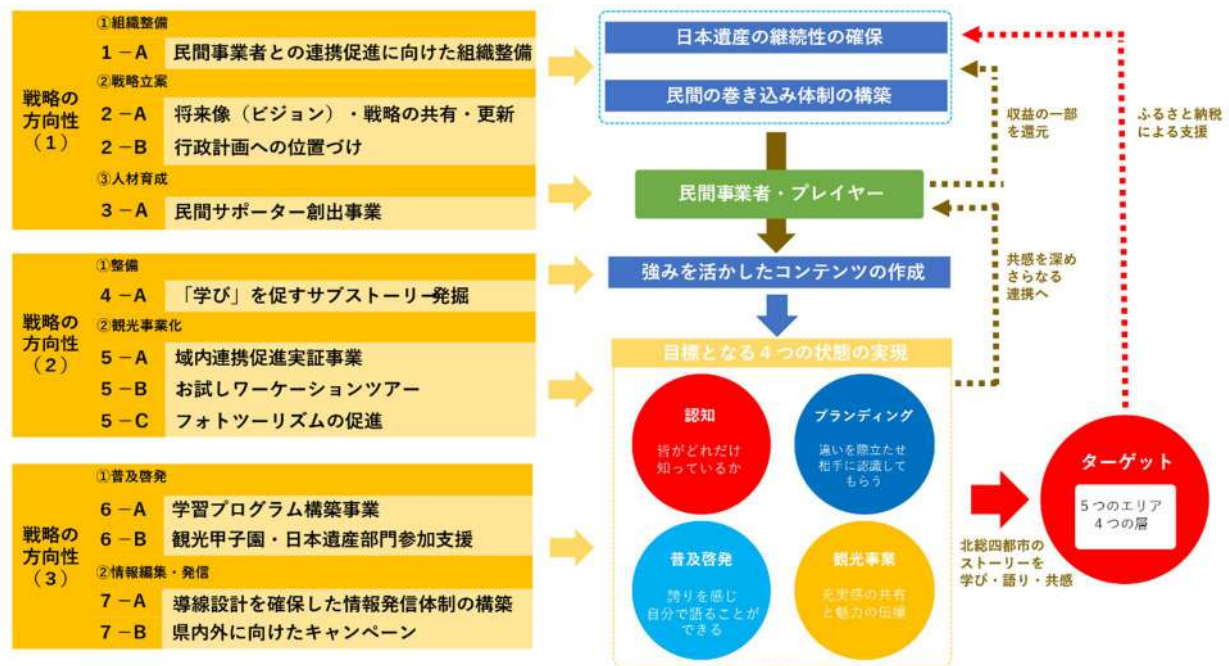


人材育成、観光事業化、普及啓発の取組を通奏する形で進められるのが情報編集・発信の取組である。定期的な情報発信の徹底や他の各事業を周知するためのキャンペーンにより、認知向上、ブランディングが図られるものとする。

(2) 活動の成果と好循環のつながり

最後に、活動の成果と日本遺産、構成文化財の保存・活用への好循環についてまとめておく。各取組の関連性については先に述べた通りであるが、これらの取組が日本遺産の継続の確保、すなわち構成文化財の保存・活用にどのようにつながっていくのかを示したのが下の図である。

戦略(1)の取組は、目標となる4つの状態の実現の前提を生み出し、戦略(2)(3)の取組の成果によって目標の具体的な実現につながる。そして、共感を深めたターゲットあるいは事業者・プレイヤーがふるさと納税や収益の一部を還元することによって、この流れが循環し北総四都市江戸紀行による地域の活性化、歴史文化の継承に資することが想定される。



(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	民間事業者との連携促進に向けた組織整備		
概要	北総四都市江戸紀行活用協議会と民間事業者との連携強化に向けて組織整備をはかる。推進体制の再構築にあたっては、役割分担、とりまとめ役を明確にした3つのワーキンググループの設置し協働できる事業の検討・実施する。取組の監修や外部評価・助言のため、プロデューサー、アドバイザーを任命し、組織の強化を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会における推進体制の再構築	<p>旅行事業者や民間事業者と協議会をつなぐ窓口として協議会の構成団体である千葉県観光物産協会、情報発信の面ではちばプロモーション協議会との連携促進を図る。加えて、次の3つのワーキンググループを組成し、役割分担やとりまとめ役を明確にする。</p> <p>①普及啓発・学校連携 「学び」の促進のため、県と四市の文化財部門（教育委員会部局）・民間サポーターにより構成・担当。</p> <p>②情報発信・広報活動 発信・購買・来訪の導線確保した情報発信、認知・ブランディング向上のため、ちばプロモーション協議会、四市、民間サポーターから担当を選出し構成。</p> <p>③観光事業・民間連携 観光事業化、民間事業者との連携のため、県と四市の観光部門・観光協会・商工会議所、県観光物産協会により構成。</p>	事務局 関係団体
②	協働できる事業の検討・実施	<p>①の推進体制の再構築にともない、行政と民間が協働して実施することができるものの具体的な検討と実施を進める。想定される内容は、次の通り。</p> <p><想定される協働事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブストーリーの発掘、学びの促進 →学校、文化資源の関係者 ・校外学習・教育旅行の誘致・実施 →学校、旅行事業者 ・魅力発信、キャンペーン協力 →地域メディア、文化資源の関係者 飲食・物販事業者 	協議会 関係団体

		・域内連携促進、各種ツアー、イベント実施 →経済関連団体、旅行事業者、イベント事業者 飲食・物販事業者	
③	プロデューサー・ アドバイザーの設置	協議会で実施する取組の統括を行うプロデューサー、事業の設計・実施にあたっての助言を行うアドバイザーを設置し、組織の強化を図る。	事務局 関係団体
年	事業評価指標		実績値・目標値
2022年	民間事業者との連携促進に向けた組織の構築		組織化
2023年	組織構築に伴う民間事業者との連携事業数		3件
2024年	組織構築に伴う民間事業者との連携事業数		3件
事業費	2022年：100千円	2023年：100千円	2024年：100千円
継続に向けた 事業設計	民間事業者との連携が継続的に行われるよう、単年度のみならず次年度以降の連携スケジュールを構築しながら進めていく。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号2-A)

事業名	将来像（ビジョン）・戦略の共有・更新
概要	今回の地域活性化計画の策定にあたって、北総四都市江戸紀行のあり方（将来像・戦略）を大きく見直すこととなった。今後、取組を進めるにあたって、北総四都市江戸紀行の文化資源の保存・活用に関する将来像（ビジョン）・戦略を協議会・関係する民間事業者と共有し、更新していく。

	取組名	取組内容	実施主体
①	将来像（ビジョン）・戦略等の共有	<p>協議会では、今回の地域活性化計画の策定にあたって四市の行政の担当者、県観光物産協会の地域プロデューサーによる担当者会議において、将来像（ビジョン）・戦略やターゲット等を新たに設定した。設定にあたっては、日本遺産プロデューサーを務めた経験のある人材をアドバイザーに迎え、外部から協議会の活動の評価・課題の洗い出しを行うとともに、ワークショップ形式で検討を進め、将来像（ビジョン）などの設定を行った。</p> <p>今後も、実際に各種の取組を進めるための担当者会議を定期的に行い、課題・戦略の共有と連携を図っていく。会議の実施時期と内容は以下を想定している。</p> <p>〈第1回〉4月 年度に実施する取組確認 〈第2回〉7月 取組の進捗確認① 〈第3回〉9月 取組の進捗確認② 〈第4回〉11月 取組の進捗確認③ 〈第5回〉1月 年度の実績確認・見直し</p>	協議会
②	将来像（ビジョン）・戦略等の更新	<p>将来像（ビジョン）・戦略等の更新にあたっては、担当者会議での確認・見直しのほか、プロデューサー、アドバイザーを交え年度の実績を確認しながら、将来像（ビジョン）・戦略に関するレビューを次年度の計画を決定する前（12月頃）に行う。そのレビューをもとに担当者会議において次年度の計画を決定すると同時に、将来像（ビジョン）・戦略等の更新を図っていく。</p>	プロデューサー・アドバイザー

年	事業評価指標	実績値・目標値
2019年	担当者会議の開催実績	5回
2020年		5回
2021年		5回

2022年	担当国会議の開催実績	5回	
2023年	担当国会議の開催実績	5回	
2024年	担当国会議の開催実績	5回	
事業費	2022年：—	2023年：—	2024年：—
継続に向けた事業設計	これまで定期的に行われてきた担当国会議を組織整備の再構築にあわせ具体的な取組を進める県観光物産協会、ちばプロモーション協議会といった関係団体との連携を深める形で実施していく。また、担当国会議だけでなく、各ワーキンググループの中でも取組を実施する中で緊密に情報を共有する場を設け、各担当の役割を明確化しながら事業を行っていく。		

(事業番号2-B)

事業名	行政計画への位置づけ		
概要	今回の地域活性化計画の策定にあたって、北総四都市江戸紀行のあり方(将来像・戦略)を大きく見直すこととなった。今後、取組を進めるにあたって、北総四都市江戸紀行の文化資源の保存・活用に関する将来像(ビジョン)・戦略を協議会・関係する民間事業者と共有し、更新していく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	将来像(ビジョン)・戦略等の共有	総合計画や文化財保存活用地域計画や観光振興計画等、各種の行政計画と北総四都市江戸紀行の関係性を整理し、日本遺産の位置づけや他の施策との関係性を明確にする。 今後、策定され位置づけが明確になる予定の計画は、千葉県文化芸術推進基本計画、香取市文化財保存活用地域計画、佐倉市文化財保存活用地域計画などを想定している(銚子市は文化財保存活用地域計画を既に策定済み)。	県・四市
年	事業評価指標		実績値・目標値
2022年	新たに位置づけられた行政計画の件数		1件
2023年	新たに位置づけられた行政計画の件数		1件
2024年	新たに位置づけられた行政計画の件数		1件
事業費	2022年：—	2023年：—	2024年：—
継続に向けた事業設計	関係する行政計画の見直しや新規策定にあたっては、既に策定され位置づけが明確になった計画を参照しつつ、策定を行う自治体と連携を取りながら日本遺産の位置づけを明確化し継続性を担保していく。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名		民間サポーター創出事業	
概要		北総四都市江戸紀行を通じた地域の活性化のために、事業に関わる人材を見出し民間サポーターとして各種事業への参画を促す。サポーターの創出に向けては、北総四都市の魅力を見つめ直すワークショップを入口とし関係性を高める中で参画意識の醸成を図り、組織化を進めていく。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	人材の把握・事業設計	北総四都市江戸紀行の各種事業の実施に向けて協働が可能な人材・組織・団体の把握を進める。 (地元住民・ガイド人材・大学生・地元企業・クリエイター)	協議会 (千葉県総括)
②	魅力を活かすワークショップを実施	四都市の構成文化財等の魅力を見つめ直し、その特性・強みは何かを検討し、自分がどのようにそれに参画していくのかを共有するワークショップを行う。これを通して関係性を高め、協議会の活動への参画意識の醸成を図る。	県・物産協会・四市
③	民間サポーターの受入れ体制の構築と組織化	上記の活動を踏まえ民間サポーターの受入れを県観光物産協会において行い組織化を図る。 例えば、組織化した民間サポーターの活用は ①観光客へのガイドサービス ②ストーリー理解促進のための情報発信 ③サブストーリー、学習プログラムの発掘・構築への参画 などを想定している。	協議会 (千葉県総括)
年	事業評価指標		実績値・目標値
2022年	魅力を活かすワークショップ開催数		1回以上
2023年	民間サポーターの受入数		20人
2024年	民間サポーターの受入数		40人
事業費	2022年：100千円 2023年：300千円 2024年：300千円		
継続に向けた事業設計	事業の実施は、協議会の自主財源をもとに行う。モニターツアー、ワークショップ、組織化までのサイクルフローを継続的に行っていくことで民間サポーターの継続的な組織化を図る。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	「学び」を促すサブストーリーの発掘		
概要	<p>北総四都市江戸紀行のストーリーの特色は、次の3つを挙げることができる。</p> <p>①江戸に続く街道と利根川水運の発達をもたらした繁栄</p> <p>②百万都市江戸を支え、江戸との関わりで発展した都市群</p> <p>③世界から最も近い「江戸」江戸情緒の残る代表的町並み群</p> <p>これまでは、観光的な活用の側面から、②と③ストーリーの提供に注力し整備が進んだ。今後は、「学び」の促進という視点から、より四市の個別の歴史文化を深掘するサブストーリー（②に関連）と、街道と水運、それを生きた江戸庶民の小旅行の流行に関わるサブストーリー（①に関連）の発掘を行う。これらのサブストーリーは、今後の取組の教育普及、観光事業の中にこれまでのものに加えるかたちで反映していき、ストーリーに記載されている歴史文化への理解が深まるように努める。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
①	サブストーリー発掘作業部会の設置・検討	<p>普及啓発・学校連携ワーキンググループの中に、四市の文化財専門職、観光案内ガイド、小中学校教員、民間のプレイヤー等を中心とした作業部会を組織し検討を進める。「学び」の促進に焦点を当て、より分かりやすく興味関心が高まるサブストーリーの発掘を行う。提案されたアイデアや成果物を活かして、学習プログラムや観光事業の開発につなげる。</p> <p>ブラッシュアップにあたっては、地元在住のクリエイターなどに協力を求めて既存のストーリーとサブストーリーを合わせて簡潔で分かりやすいストーリーに変換する作業を行う。</p>	協議会 (香取市総括)
②	四都市拠点の検討	<p>情報発信や観光事業の販売等は、Web サービスが基本となるが、情報の提供や体験の受付窓口・ガイド受付等のリアル拠点について各市1か所ずつ確保していくことを検討する。</p>	協議会 (銚子市総括)
年	事業評価指標		実績値・目標値
2022年	発掘されたサブストーリーの数		4件以上
2023年	学習プログラム・観光商品に活用されたサブストーリーの数		4件以上
2024年	学習プログラム・観光商品に活用されたサブストーリーの数		4件以上
事業費	2022年：300千円 2023年：0円 2024年：0円		
継続に向けた事業設計	事業の実施は、協議会の予算の中で行うことを想定している。発掘されたサブストーリーは、別に実施する教育普及事業や情報発信、観光事業の素材として活用されるように展開する。また適宜見直しや新たなサブストーリーの発掘を行う。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	域内連携促進実証事業		
<p>概要</p>	<p>成田空港活用協議会、民間事業者と連携し複数都市が連携するコンテンツ開発、ニーズの把握を行う。コンテンツは、観光事業化の取組で行われるツアーと教育旅行の2種を作成する。コンテンツの内容は、(4-A)「学び」を促すサブストーリーの発掘において検討された内容を観光商品として落とし込んだものとなる。実証にあたっては、成田空港就航都市や都内などのメディア、関東圏の教育旅行を扱う事業者を招聘し作成したコンテンツの市場投入前のチェックのためのモニターツアー・情報発信等を行いコンテンツ開発とともに継続的に誘客を図る仕組み・体制をつくる。</p> <p>この構築にあたっては、(7-A)「導線設計を確保した情報発信体制の構築」での認知→興味関心→行動(予約・購買)→ユーザーによる発信→…のサイクルと共有しながら行い、日本遺産のストーリー体験の提供につなげる。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
①	コンテンツ開発	<p>四市の歴史文化をさらに深く体感できるプログラム・複数地域にまたがったプログラムの開発のため、情報収集・現場視察・意見交換を行いコンテンツ案を作成する。現状想定されるコンテンツの例は下記の通りであるが、4-Aの取組で発掘された新たなサブストーリーの内容を踏まえたものを追加し改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐倉：武家文化の理解 →サムライ体験ツアー ・成田：門前町の仏教文化体験 →成田山新勝寺での写経 ・香取：商家の町並みの魅力体験 →水郷佐原の町並みを着物で散策 ・銚子：銚子の食文化・手仕事の体験 →醤油工場見学・銚子ちぢみ藍染体験 ・共通：江戸と北総四都市の食文化 →各市の特産(醤油・みそ・地酒) <p>江戸の歴史文化の理解と体験 →歴博・房総のむらとの学びツアー</p>	<p>成田空港活用協議会 民間事業者協議会 (佐倉市総括)</p>
②	市場投入前の検証モニターツアー・効果検証	<p>①で検討したコンテンツをより効果的に市場に投入していくためには、効果検証の作業が欠かせない。コンテンツの開発後は、市場投入前のモニターツアーと情報発信を行い、効果を検証し、実際の誘客の仕組みを整えていく。</p>	<p>成田空港活用協議会 民間事業者協議会 (成田市総括)</p>

		販売は、各市の観光協会が担い、ちばプロモーション協議会や県物産協会が情報発信をサポートする体制を基本とし、旅行事業者とのタイアップも検討する。Asoview や Voyagin などでの Web 予約がベースとなるが、来訪地での予約や情報を提供するリアルな拠点を各市 1 つずつは確保することも検討する。	
③	校外学習のための情報提供・マップの配布	令和 2 年度、3 年度に取り組んだ校外学習誘致の取組を継続・発展させ、学校の四都市への来訪を促す。学校だけでなく旅行事業者にも情報を提供し、誘致を促進する。	協議会 (千葉県総括)
年	事業評価指標		実績値・目標値
2022 年	作成コンテンツ数		4 件以上
2023 年	観光商品・学習プログラムへの活用		4 件以上
2024 年	観光商品・学習プログラムへの活用		4 件以上
事業費		2022 年： 8600 千円	2023 年： — 2024 年： —
継続に向けた事業設計		事業の実施は、成田空港活用協議会から委託を受けた民間事業者が中心なり行うことを想定している。2022 年度にコンテンツの作成、誘客の仕組みを整えた後は、別に実施する観光事業、教育普及事業、情報発信の中でこれらを活用し、より内容を充実させたものとする。内容や仕組みについては適宜見直し改善を図る。	

(事業番号 5-B)

事業名		お試しワーケーションツアー	
概要		近年新しいライフスタイルや観光需要として注目されているワーケーションに焦点をあて観光事業化を図る。北総四都市の自然景観や町並みを体感し、地域を知るためのワーケーションツアーを実施し、日本遺産のまちをアピールしてワーケーションやロングステイ需要に対応できる体制を整える。ツアー造成にあたっては、(4-A)「学び」を促すサブストーリーの発掘」、(5-A)「域内連携促進事業」と歩調を合わせながら検討・検証を進める。認知・購買・来訪のサイクル構築にあたっては、(7-A)「導線設計を確保した情報発信体制の構築」の事業と連携を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	事業設計 観光商品の開発・販売	ワーケーション・ロングステイに着目して北総四都市江戸紀行で活用できるコンテンツを洗い出し、ツアーの内容を整える。宿泊拠点としては古民家ホテル等を想定し、平日は古民家ホテルで仕事、休日に四都市の観光などを行うといったスタイルが考えられる。	物産協会 旅行事業者 協議会 (銚子市総括)

		<p><現在想定しているツアー例></p> <p>❶広重も愛した日本遺産の絶景を体感 夕日富士山ジオ散歩、ドローン空撮レッスン、サーフィン、カヤック、トウクトウク、グランピング</p> <p>❷着物でぶらり北総のまち 北総四都市の城下・町並・参道を着物で散策</p> <p>❸「江戸の台所」見学ツアー 工場見学・収穫体験（醤油・みそ・地酒・キャベツ・ダイコンなど）</p> <p>※販売の仕組みは5-A、情報発信のサイクルは7-Aのものを参照・基本とする。</p>	
年	事業評価指標	実績値・目標値	
2022年	事業設計		
2023年	開発する観光商品の件数	2件以上	
2024年	販売された観光商品の件数	2件以上	
事業費	2022年： — 2023年：2000千円 2024年：2000千円		
継続に向けた事業設計	協議会はコーディネーターとして参画。実際の観光商品の販売は物産協会や旅行者が担うことができるよう事業設計を行う。事業実施にかかる経費は事業者収益や補助金等の活用を見込んでいる。		

(事業番号5-C)

事業名	フォトツーリズムの促進		
概要	<p>北総四都市の歴史文化に共感を生むしかけ・きっかけづくりとして、SNSを活用したフォトツーリズムの促進をはかる。北総四都市の構成文化財は、ロケーションとしての魅力が高く、ビジュアル通した訴求力が特徴的である。また、銚子市では若い世代の利用の多いInstagramでのPRについての実績があり、これを四都市に広げることでより充実した情報発信につながる。こうした状況を踏まえ、フォトコンテストをSNS上で開催し、実際に北総四都市を訪れる機会を提供するために、プロ写真家から学ぶフォトツアー、ニーズが高まっているコスプレイヤーの撮影イベントや関連ブースの出展などを行う。実施に当たっては、(7-A)「導線設計を確保した情報発信体制の構築」の事業と連携を図ることで、情報発信から実際の来訪のサイクル構築に向けた効果的な事業の実施を行う。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
①	情報・ニーズの把握	北総四都市内のロケーション、受入れ体制の情報のリストアップ。写真家、コスプレイヤー、イベントを請け負う事業者へのヒアリングを行い、どのようなニーズがあるのかを把握する。	協議会 (佐倉市総括)

②	北総四都市フォトツアー	フォトコンテストの開催中、北総四都市を巡りながらプロ写真家に写真の撮り方を学ぶ写真教室を開催。	物産協会 民間事業者 協議会 (成田市総括)
③	コスプレイヤーにやさしい日本遺産	定期的な情報発信、著名コスプレイヤー・インフルエンサーによる Web での PR 記事による周知。四市を舞台とした撮影イベントを実施し、フォトコンテストへの参加を促す。また、世界コスプレサミット等へのブース出展なども行い、北総四都市がコスプレイヤーにやさしい日本遺産であることを発信する。	民間事業者 協議会 (佐倉市総括)
④	SNS でフォトコン開催	共通のハッシュタグをつけて SNS (Twitter または Instagram) で写真をポストしてもらう。景品は各市の事業者から提供してもらう。来訪・店舗で受け取りを促進するため体験プログラムも景品とする。景品を提供してもらった事業者にも参加してもらい、審査。ホームページで結果発表。実施にあたっては季節や場所、テーマを変えながら開催する。	物産協会 民間事業者 協議会 (成田市総括)
年	事業評価指標		実績値・目標値
2021 年	受け入れ可能な施設数		4 件
2022 年	①受け入れ可能な施設数 ②ハッシュタグによる投稿数		①6 件 ②100 件
2023 年	①ハッシュタグによる投稿数 ②イベント参加者数		①200 件 ②200 名
2024 年	①ハッシュタグによる投稿数 ②イベント参加者数		①300 件 ②500 名
事業費	2022 年： 300 千円 2023 年：2000 千円 2024 年：2000 千円		
継続に向けた事業設計	<p>協議会はコーディネーターとして参画。実際の観光商品の販売は物産協会や旅行業者が担うことができるよう事業設計を行う。事業実施にかかる経費は事業者収益や補助金等の活用を見込んでいる。</p> <p>また、マンガ・アニメ・ゲーム等のメディアを主題とするコスプレ文化は、国際的な発信力も強いことから、今後のインバウンド需要を見込んだ事業展開も視野に入れている。</p>		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	学習プログラム構築事業		
<p>概要</p>	<p>地域の子どもたちが日本遺産のストーリーを理解し、構成文化財に触れる機会を創出することで地域への愛着や文化財への関心を高め、文化財の保護への理解や主体者として関わる人材を育むことを目的とする。</p> <p>そこで、地域の子どもたちが語ることができる日本遺産となるように、構成4市の小中学校の教育の中で活用できる学習プログラムを構築し、普及啓発を行い、将来的には県内の学校への広がりを目指す。また、プログラム構築や事業実施にあたっては(4-A)「学び」を促すサブストーリーの発掘、(5-A)「域内連携促進事業」との連携を図り、観光案内ガイドや民間事業者からの協力を得られるような体制も併せて整備する。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
①	学習プログラムの作成と教材作り	<p>(4-A)「学び」を促すサブストーリーの発掘」にて組織した作業部会を継続設置し、市内小中学校の現状の把握とターゲットごとのアプローチ方法を設定。平成30年度事業で作成した副読本を活かしつつ、新たに全体ストーリーを意識した学習プログラムと教材を作成する。</p> <p>小学3・4年生が使用している社会科副読本への日本遺産関連記事の導入、小学高学年及び中学生を対象とした出前講座などで活用できる学習プログラムの作成といった事業を想定している。作業部会に教員や民間サポーター等も参画してもらい、教育現場や地域の実情にも合わせて検討しながら進める。</p>	協議会 (香取市総括)
②	学習プログラムの提供	<p>共通テキストによる学習プログラムを提供する。</p> <p>作成したテキスト等は協議会HPで公開するとともにGIGAスクール構想で導入された端末で利用可能な形でのコンテンツを作成・提供することも視野に入れ、活用の利便性を高める。</p> <p>2023年度内に学習プログラム作成の実施、構成4市内での学習プログラムの展開、2024年度は構成4市内での展開の徹底と千葉県他地域への展開開始と周知活動も行う。</p>	協議会 (銚子市総括)

年	事業評価指標	実績値・目標値
2022年	北総四都市の構成文化財を校外学習で訪れた学校数	100校
2023年	学習プログラムを活用した北総四都市の小中学校割合	20%
2024年	学習プログラムを活用した北総四都市の小中学校割合	40%
事業費	2022年：200千円　2023年：700千円　2024年：200千円	
継続に向けた事業設計	<p>事業の実施にあたっては協議会の自主財源で行う想定である。一過性の取組とせず、各世代に応じた学習プログラムを作り、継続して提供することで、自身の成長過程の中に文化財が身近にあるという環境を形成することも重要である。そのため、協議会の中でも県及び構成4市の教育委員会が中心的な役割を担い、民間のガイド人材とも連携して事業を推進していくことが肝要である。</p> <p>教育委員会は、学習プログラムの構築や文化財担当職員を講師として派遣するとともに、教育活動を補助するガイドや講師として協力できる民間のガイド人材・事業者等の見出し及び育成を行うほか、大人向けのテキストの作成も目指す。また、協議会のガイダンス施設である国立歴史民俗博物館や千葉県立房総のむらにもストーリーに沿った事業企画や学習プログラム作りに積極的に関与してもらう必要がある。さらに、学習プログラムの活用を県内外に発信するためのプロモーション活動は、千葉県観光部局や千葉県観光物産協会などと連携を取って進めていく。</p>	

(事業番号6-B)

事業名		観光甲子園・日本遺産部門参加支援	
概要		<p>全国の高校生が観光動画の出来栄を競うコンテストである観光甲子園に日本遺産部門が設置されている。高校生の総合的な探究活動の中で「地域」の文化や観光が注目されている。北総四都市からも出場している学校があるが、これを協議会が支援することで、より深い学びを提供することにつながる。事業の実施により、繰り返しの教育普及、認知向上、関係人口の維持確保が期待される。実施にあたっては、(4-A)「学び」を促すサブストーリーの発掘や(6-A)「学習プログラム構築事業」との連携を図り、成果を(7-A)「導線設計を確保した情報発信体制の構築」とつなげて発信することでより効果的な事業実施につとめる。</p>	
	取組名	取組内容	実施主体
①	情報の把握と参加促進	既に参加実績のある高校にヒアリング調査を行い、支援の具体的な検討の材料とする。参加を促すPRを四都市内の高校に実施するとともに、参加を希望・検討する高校に出前授業を行い北総四都市江戸紀行の理解を深めてもらう。	協議会 (佐倉市総括)
②	動画作成支援	四都市内の構成文化財等ロケ地での撮影受け入れ支援を行う。加えて、予選・準決勝・決勝の各工程で提出する計画書・絵コンテ・動画作成時に協議会メンバーや映像制作を手掛ける民間事業者・クリエイターによるアドバイスをを行い支援する。	協議会 (佐倉市総括)
年	事業評価指標		実績値・目標値
2022年	参加校数		2校以上
2023年	①参加校数②決勝進出校		①4校以上②1校以上
2024年	①参加校数②決勝進出または入賞校		①4校以上②1校以上
事業費	2022年：150千円 2023年：150千円 2024年：150千円		
継続に向けた事業設計	事業の実施は協議会の自主財源で行うことを想定している。観光甲子園の実施スケジュールにあわせて定期的なPR・支援を行い学びを促進することで事業を継続的に実施していく。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	導線設計を確保した情報発信体制の構築		
<p>概要</p>	<p>日本遺産のストーリー体験の提供にあたっては、認知→興味関心→予約購買→来訪→再発信→認知…のサイクルを情報発信の面で構築し、各種観光事業を実施していく必要がある。そのための体制を構築し、認知の向上、ブランディングにつなげていく。情報編集・発信にあたっては、各種 SNS の特徴・利用者層と対応する事業にあわせて使い分けながら効果的に行っていく。</p> <p>整備、観光事業化、普及啓発の各種事業を通奏する取組であり、事業間の連携を図りながら効果的に周知を行う。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
<p>③</p>	<p>発信から来訪までの導線設計を確保した情報発信体制の構築</p>	<p>5-A、B、C で実施する観光事業について、SNS での発信から来訪までの導線を確保した情報発信の体制構築を行う。SNS を積極的に活用する若い世代のターゲット層に向け Twitter・Instagram を主に活用する。銚子市では若い世代の利用の多い Instagram での PR についての実績があり、これを四都市に広げることでより充実した情報発信につなげる。</p> <p>導線の確保にあたっては、ストーリーの体験に関わる Web サービス (情報を一元的に閲覧できるページ、予約サイト) を提供する。発信から来訪・体験、さらにユーザーによる情報発信と別のターゲットへの波及を見据えた情報発信のサイクルは下記を想定し、構築を進める。</p> <p><情報発信のサイクル></p> <p>【認知】 ターゲットに向けた情報発信 ↓ SNS (Twitter・Instagram)</p> <p>【興味関心】 情報の一元的な提供 ↓ 北総四都市江戸紀行公式ページなど</p> <p>【予約購買】 Web をベースとする予約 ↓ Asoview・Voyagin などの予約サイトから</p> <p>【来訪】 四都市へ実際に来訪 ↓ リアル拠点の検討も</p> <p>【再発信】 体験したユーザー自らの情報発信 ↓ 共通ハッシュタグによる投稿による促進</p> <p>【認知】 認知・ブランディングの向上 ↓ 別のターゲットへ</p> <p>※はじめにもどる</p>	<p>協議会 (銚子市総括)</p>

④	定期的な情報発信の徹底・フィードバックによる効果検証	<p>構成文化財を中心とした四都市の知られざる魅力を発信していく。投稿は定期的にテーマを設けて四市で一体感を出せるようにする。投稿内容は、Twitter は更新頻度重視、Instagram は画像中心、Facebook はイベントの PR・ブログベースとするとし、媒体によって使い分ける。</p> <p>投稿は SNS・曜日ごとに各市及び県で担当を振り分け、決められた投稿数を維持するとともに各種事業との連携を図っていく。また、Twitter のアンケート機能を利用し、活用協議会の取組に対してのフィードバックをコストをかけずに集計する。</p> <p>また、民間サポーターもそれぞれの興味関心や活躍する分野に関わるものを発信することで、日本遺産のストーリーの理解を深めることにつながる。</p> <p>加えて、四都市の観光系アカウントと連携し、相互に情報発信を併せて行いより発信力を高める。連携を続けていくことで四都市のハブアカウントとなることも目標とする。</p>	協議会 (銚子市総括)
年	事業評価指標		実績値・目標値
2022 年	北総四都市江戸紀行公式 SNS のフォロワー数		フォロワー：100 人増
2023 年	北総四都市江戸紀行公式 SNS のフォロワー数		フォロワー：300 人増
2024 年	北総四都市江戸紀行公式 SNS のフォロワー数		フォロワー：1,000 人増
事業費	2022 年：500 千円 2023 年：100 千円 2024 年：100 千円		
継続に向けた事業設計	<p>コンスタントな情報発信を行うことで、人目につく機会を増やしていく。「チーバくんの頭には歴史がつまっている」といったわかりやすいキャッチコピーなどを利用しながら幅広い世代に北総四都市のイメージを植え付ける。他事業とも連携しながら SNS 自体の PR も含めて情報発信を行っていく。キャンペーンの事業費は自主財源のほか補助金等の活用を見込んでいる。</p>		

(事業番号7-B)

事業名	県内外に向けたキャンペーン		
<p>概要</p>	<p>北総四都市江戸紀行の歴史文化とその魅力の情報発信のため、県内外に向けたキャンペーンを行う。ターゲット層の特性や地域性に合わせて取組の方向性を変え、より効果的な事業を実施していく。</p> <p>主に県内向けには、千葉県公式キャラクターのチーバくんを用いた「チーバくんの頭には歴史がつまっている」キャンペーンや、ターゲット設定を行った県外（東京・神奈川・茨城）向けには北総四都市の観光誘致や移住促進をマンガ形式で紹介するキャンペーンなどターゲットにわかりやすいキャラクターや媒体を活用することで展開していく。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
<p>①</p>	<p>「チーバくんの頭には歴史がつまっている」キャンペーン（県内向け）</p>	<p>千葉県マスコットキャラクターである「チーバくん」はターゲット層の一つである県内の若い世代のほぼ 100%の認知度があり、これを活かしたキャンペーンを展開する。周知する内容は、整備、観光事業化、普及啓発などの各種事業で、北総四都市が千葉県を模したキャラクターの後頭部にあたることから、左記のフレーズを用い、認知向上、ブランディングを効果的に行う。</p> <p>あわせて、四都市の SNS アカウント (Twitter・Instagram) をフォロー&リツイート(いいね)、または、共通ハッシュタグで投稿してくれた方の中から抽選でグッズをプレゼントする。グッズはチーバくん、うなりくんのぬいぐるみ等に加え、地元特産品や現地での体験プログラムをプレゼントとすることにより、取組を伝え、来訪を促進しながら民間の巻き込みを図る。</p>	<p>協議会 (千葉県総括)</p>
<p>②</p>	<p>マンガによる観光促進・移住誘致キャンペーン（県外向け）</p>	<p>「コロナ禍だから、北総に住んでみたら地味に最高だった件」(仮) のタイトルのマンガ形式で移住促進と観光誘致を行うキャンペーンを実施する。</p> <p>四都市にゆかりのあるクリエイター・漫画家によるマンガを SNS、県・四市の広報紙、地元のフリーマガジン等に掲載し展開を図る。連載を続けていくにあたり、少しずつ地元のネタの範囲を増やしていく。北総四都市で行うイベントや日本遺産サミット、日本遺産の日などでも、ブース出展を行い、読者を増やしていく。</p>	<p>協議会 (成田市総括)</p>

年	事業評価指標	実績値・目標値
2022年	北総四都市江戸紀行公式 SNS のフォロワー数	フォロワー：100人増
2023年	北総四都市江戸紀行公式 SNS のフォロワー数	フォロワー：300人増
2024年	北総四都市江戸紀行公式 SNS のフォロワー数	フォロワー：1,000人増
事業費	2022年： — 2023年：1500千円 2024年：1500千円	
継続に向けた事業設計	<p>コンスタントな情報発信を行うことで、人目につく機会を増やしていく。「チーバくんの頭には歴史がつまっている」といったわかりやすいキャッチコピーなどを利用しながら幅広い世代に北総四都市のイメージを植え付ける。</p> <p>また、効果検証にあたっては、定期的にアンケート（各市の施設等、SNS上）を行い、認知が向上したかをトラックする体制をとる。キャンペーンの事業費は自主財源のほか補助金等の活用を見込んでいる。</p>	